

# INTREPID II

## WOODBURNING STOVE

取扱説明書

MODEL#1990

[イントレピッドII]



VERMONT  
CASTINGS

# ようこそ薪ストーブの国へ

## Welcome to Wood Stove-Country.

薪ストーブの国へ、ようこそいらっしゃいました。  
この度は、バーモント・キャストिंगス社の〈イントレピッドII〉を  
お買い上げいただき、ありがとうございます。  
今日から、あなたも薪ストーブの国の住人です。

さて、これから薪ストーブの炎がゆらめく素晴らしい日々が始まりますが、  
その前にお願いしたいことがあります。  
それは、この「取扱説明書」を必ずていねいにお読みいただくことです。  
そして、この薪ストーブを正しく使用し、  
いつまでもこの薪ストーブとともに暖かい人生を  
分かちあっていたきたいということです。  
なお、この説明書は保管していただき、  
後日、分からないことが起こった折にご再読ください。



# 目次

安全に正しくお使いいただくために	4
1. イントレピッドIIの歴史	8
2. イントレピッドIIの基礎知識	9
3. 本体及び煙突設置基準	12
4. 薪について	14
5. 薪の着火と燃焼維持	
着火の前に用意するもの	16
慣らし焚き	16
焚き方	18
薪の補充	20
消火	21
灰の処理	21
キャタリティックコンバスターについて	22
エアコントロールについて	23
6. ドラフト管理	24
7. メンテナンス	
メンテナンス・スケジュール	28
薪ストーブ本体のお手入れ	29
ドアガラスの交換	30
ファイバーロープの交換	31
ドアの調整(フロント)	34
バイパスダンパーの調整	35
キャタリティック・コンバスター 及び二次燃焼室の点検	36
一次及び二次空気取入れ口の点検	38
煙突掃除	39
8. パーツリスト	40
9. トラブルシュート	42
10. 保証とアフターサービス	45



必ずお読みください

# 安全に正しくお使いいただくために

## 警告表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな警告表示をしています。誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

### 警告表示の意味

#### 危険

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う危険が高い、または火災の危険が高い内容を示しています。

#### 警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡、重傷を負う可能性、または火災の可能性のある内容を示しています。

#### 注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。



表示は、してはいけないことを表しています。



表示は、しなければならないことを表しています。

## 危険

-  ストープおよび煙突は、建築基準法および消防法、お住まいの地域の火災予防条例のもと、本書12、13ページの「ストープ及び煙突設置基準」に従い、可燃物と火災予防上安全な離隔距離を設け、または適切に保護した上で設置してください。
-  可燃材の床にストープを設置する場合は本書12、13ページの「本体及び煙突設置基準」に従い床を適切に保護し、付属のボトムヒートシールド（遮熱板）を必ずストープ底部に取り付けて使用してください。保護を怠ると火災の原因になります。
-  ストープ背面および側面から本書12ページに記載された離隔距離以内に可燃壁、薪、家具、カーテン、洗濯物等燃えやすい物を近づけないでください。同じく、ストープ正面から122cm以内に可燃物を近づけないでください。火災の原因となります。
-  煙突から本書13ページに記載された離隔距離以内に可燃壁、薪、家具、カーテン、洗濯物等燃えやすい物を近づけないでください。火災の原因となります。
-  ストープが不安定な場所に設置されている、または煙突の支持固定が正しくされていない等、ストープおよび煙突にガタつきや変形、破損を発見した場合は、直ちにご使用をおやめになり、お買い求めの販売店へご相談ください。そのままご使用になりますと火災の原因となります。
-  煙突内部や端部（トップ）がススなどで閉そくしたまま、または煙突が外れたまま使用しないでください。異常燃焼および煙が室内に漏れて危険です。

- ❗ ストープを設置する居室には、屋外に直接通じる給気口を壁に設置する、もしくは屋外から給気用のダクトを用いストープに直接接続してください。いずれも建築基準法に基づいて計算した有効な開口面積以上の大きさで、雪や落ち葉などでふさがれない場所に設けてください。ストープまで適切な給気を怠りますと、運転中に不完全な燃焼や、逆流により煙が室内に漏れて危険です。
- ⊘ 乾燥した自然の薪以外は燃やさないください。有害物質が発生し健康に害を及ぼすほか、ストープおよび煙突の破損、異常燃焼により火災の原因になります。
- ⊘ 引火性のあるガソリン、灯油、揮発性の液体や、スプレー缶などの高圧容器等をストープの上や熱のあたるところに置かないください。爆発や火災の原因となります。
- ❗ ストープは定期的に（少なくとも1年に1回）二次燃焼室内の点検および清掃を行ってください。二次燃焼室内部や触媒にススが堆積すると、正常な燃焼が行われないばかりか、ダンパーを閉じた際に煙が室内に漏れて危険です。詳しくは本書28ページの「メンテナンス」をご参照ください。
- ❗ 煙突は定期的（少なくとも1年に1回）もしくは煙突内部に3mm以上の副生物（スス、タールなど）が付着した場合、必ず掃除を行ってください。そのまま放置しますと煙道火災が発生する、または、煙が室内に漏れて危険です。詳しくは本書39ページの「煙突の点検と掃除」をご参照ください。
- ❗ 灰は火の気が完全に消えたことを確認の上、密閉できるフタの付いた不燃性の灰取りバケツに入れて、72時間以上経過した上で冷えていることを確かめて処理してください。

また、灰取りバケツは必ず厚み5cm以上の金属以外の不燃材の上に周りの可燃物から遠ざけて置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面からの熱が伝わり、火災の原因となります。

### ⚠ 警告

- ⊘ ご使用中に各ドアを開けたままストープのそばから離れないください。火の粉が飛んだり、薪が転がり落ちたりして火災の原因となります
- ⊘ 本書28ページに基づくメンテナンスによるパーツの分解および交換以外で、お客様ご自身の判断によるストープおよび煙突の改造はしないでください。異常燃焼によるストープまたは煙突の破損や、火災の原因となります。
- ⊘ 可燃性ガスの発生する場所、または溜まる場所での設置および使用はおやめください。火災の原因になります。
- ⊘ 燃焼中に灰受扉を開かないください。異常燃焼によるストープまたは煙突の破損や、火災の原因となります。
- ⊘ 焚きすぎないください。ストープトップの温度が350℃以上で継続して使用するとストープおよび煙突の破損や火災の原因となります。
- ⊘ クッキング・グリドルから薪を投入する際は、ガラスにあてないように注意して行ってください。また、ドアを激しく閉めないください。ドアガラスが破損すると、室内に火の粉や煙が漏れて危険です。

必ずお読みください

## 安全に正しくお使いいただくために

安全に正しくお使いいただくために

- ❗ 事故防止のために、お出かけの際には、ストーブが完全に冷えていることをご確認ください。
- ❗ 地震や落雷にあった場合、ストーブおよび煙突まわりの点検を行ってください。変形および破損、煙突の接続、支持不良、または建物の損壊を発見した場合、そのままご使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。なお、隠蔽部等、お客様ご自身で点検が困難な場合、お買い求めの販売店へご依頼ください。
- ❗ ストーブをご使用になる前に、必ず部屋の給気口（レジスター等）を開き、外気が入る状態にしてください。  
使用中に煙の強い臭いや異臭を確認したら、ただちに使用をおやめになり、窓や戸を開けて室内の換気を行い、お買い求めの販売店にご相談ください。

### ⚠ 警告

ストーブを据え付ける部屋の気密が高い場合で、部屋の換気設備やストーブの他に空気を必要とする機器の影響により、ストーブが燃焼に必要な空気量を十分に取り込めないと、不完全燃焼が起こる他、一酸化炭素を含んだ煙が部屋に漏れて、健康に害をおよぼすおそれがあります。  
一酸化炭素検知機能の付いた火災警報器の取り付けをおすすめします。

### ⚠ 注意

- ⊘ 燃焼中や消火後はストーブおよび煙突が非常に高温になりますので、手などを触れないでください。やけどの恐れがあります。

- ❗ ストーブを操作する際は、必ず不燃性で皮が厚く、なおかつ断熱効果のあるストーブ専用グローブを着用してください。素手や化学繊維で作られた手袋を使用すると、やけどやケガの原因になります。
- ⊘ お子様をストーブに近づけないでください。やけどやケガの危険があります。特に小さなお子様がいらっしゃるご家庭には別売のフェンス等の移動防止柵等を設けることをおすすめします。
- ⊘ 燃焼や部品の変形など異常を感じたときはご使用をおやめになり、販売店へご相談ください。
- ❗ ご使用中、クッキング・グリドルやフロント・ドアを開ける際には必ずバイパス・ダンパーを開けてください。バイパス・ダンパーを閉めたままクッキング・グリドルやフロント・ドアを開けると煙が室内に漏れて危険です。
- ❗ 必ずお買い求めの販売店からストーブの焚き方について説明を受けてください。
- ⊘ 燃焼中はストーブに急激な温度変化（急冷却、急加熱）を与えないでください。変形、破損の原因となります。
- ⊘ 過度な加熱、局部的な加熱をしないでください。ストーブの歪み、割れ、変形等の原因となります。
- ⊘ ストーブの上ののったり、腰かけたりしないでください。破損やケガの原因となります。
- ⊘ クッキング・グリドルとフロント・ドアを同時に開けないでください。煙が室内に漏れて危険です。
- ⊘ クッキング・グリドルを開いて薪を投入する際は、ハンドルから手を離さないようにしてください。手を離すとグリドルが閉まり、やけどやケガの原因になります。

- ❗ 万が一のために、初期消火のための消火器等を火元になると思われる場所から離して、常に決まった場所に置いてください。
- ⊘ ホコリ、湿気の多い場所への設置はしないでください。ストーブの破損や腐食の原因となります。
- ❗ 火災の早期発見のため、煙感知器を設置してください。その際ストーブとの距離を考慮に入れ、誤報にならないよう注意が必要です。お住まいの地域の火災予防条例に従ってください。
- ❗ ストーブの燃焼中に換気扇を使用する場合には、あらかじめ煙が室内に漏れないことを確認の上、ご使用ください。もし煙が漏れる場合は、ご使用をおやめになり販売店へご相談ください。
- ❗ ストーブを焚き始める前に、必ず「慣らし焚き」を行ってください。いきなり高温で使用すると破損の原因になります（「慣らし焚き」の方法については17ページをご覧ください）。
- ❗ 焚きはじめての数回は、部屋を十分に換気してください。ストーブと煙突に塗られている錆び止め油や塗料が熱せられ、においと煙が発生します。
- ❗ ホウロウ仕上げのストーブは、性質上、仕上げ面が衝撃に非常に弱いため、取り扱いに十分ご注意ください。また、水をかける等ホウロウに急激な温度変化を加えないでください。破損の原因となります。
- ❗ ストーブおよび煙突のお手入れは、冷えていることをご確認の上行ってください。やけどの原因となります。

- ⊘ ストーブに水分や塩分を付着させないでください。誤って付着した場合はすぐに拭きとって乾かしてください。錆びの原因となります。

### ❗ 煙道火災が発生したら……

火力調整レバー、各ドアをしっかりと閉めて屋外へ避難して消防署に連絡してください。後に必ず専門業者に点検を依頼してください。（26ページの「クレオソート」をご参照ください。）

### ❗ 地震が起こったら……

- 1) まず身の安全を図り、揺れがおさまるまで様子をみます。
- 2) 揺れがおさまったら、あわてず落ち着いて火力調整レバーを最後まで閉じ、ダンパーを閉めてください。また、各ドアが確実に閉まっているかを確認してください。

#### 〈注意〉

本体に水をかけないでください。急激な温度変化を与えると錆物等が破損する他、高温の蒸気が噴出し大変危険です。万が一出火した際は、ABC粉末消火器で安全な距離から消火を行ってください。

- 3) 避難が必要な場合は、薪や家具などの燃えるものをできるだけ本体から離し、避難してください。
- 4) 地震のあと、本体および煙突まわりの点検を行ってください。変形および破損、煙突の接続、支持不良、または建物の損壊を発見した場合、そのまま使用にならず、お買い求めの販売店へご相談ください。なお、隠蔽部等、お客様ご自身で点検が困難な場合、お買い求めの販売店へご依頼ください。

# 「イントレピッドII」の歴史

## 1

### コンパクトな高性能機種

イントレピッドIIの歴史

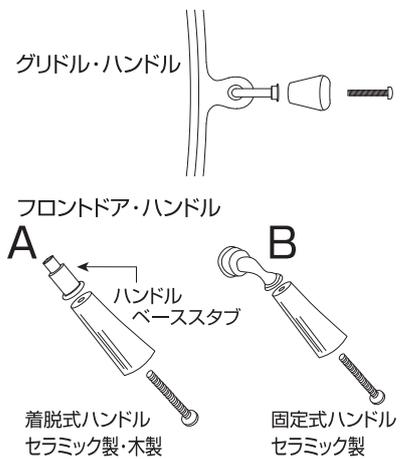
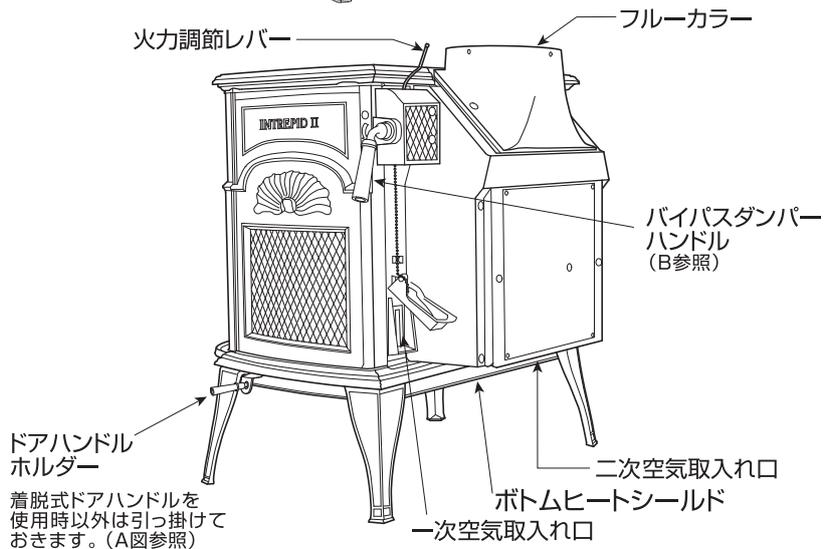
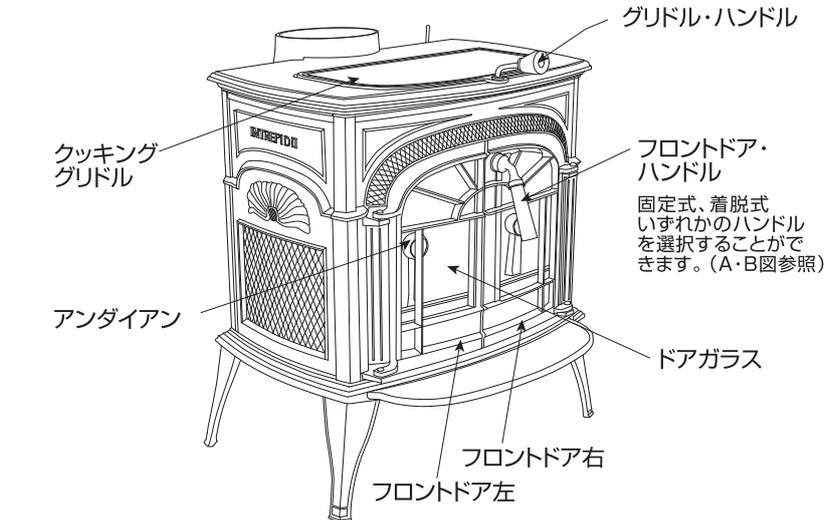
1975年バーモントキャストिंगス社は2人の起業家によって設立されました。時はまさに石油高騰オイルショックの最中、人々は石油にかわる安価な燃料を探し求めていました。バーモントキャストिंगス社はデファイアントという当時としては驚異的な燃焼効率を誇る薪ストーブを世に送り出しました。この成功をもとに生産体制を整えたバーモントキャストिंगス社は1982年イントレピッドを発表。小型のこの薪ストーブは省スペースで手ごろな大きさが重宝がられ、順調に

販売台数を伸ばしました。大気汚染が問題になりだした1987年イントレピッドは触媒を搭載し高性能薪ストーブ『イントレピッドII』として新たな誕生を飾りました。水平燃焼に加えキャタリティックコンバスターを備えたコンパクトで高効率なイントレピッドIIは、多くの薪ストーブユーザーに満足を与え愛され続けています。



# イントレピッドIIの基礎知識

## 各部名称

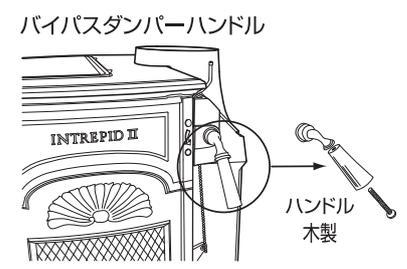


フロントドア用のハンドルには、セラミックと木製の2種類が付属されています。お好きな方をお使いいただき、1本はスペアとして保管してください。バイパスダンパーハンドルは必ずセラミックハンドルをお使いください。

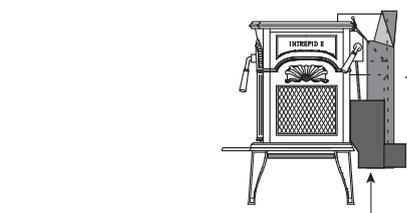
- ・セラミックハンドル(ネジ付) …… 2本
- ・木製ハンドル(ネジ付) …… 1本
- ・ハンドルベーススタブ …… 1個

※フロントドアに木製ハンドルをご利用の場合、固定するとハンドルが焦げるおそれがありますので、固定せずハンドルベーススタブをご使用ください。使用時以外、取り外したハンドルは本体右下側面にあるドアハンドルホルダーに掛けてください。

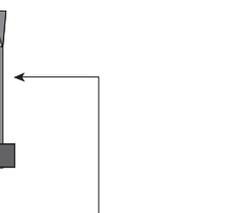
※セラミック製ハンドルは破損し易いので落下等衝撃にご注意ください。



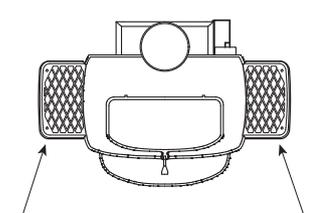
## オプション



【給気アダプター】  
燃焼用の空気を屋外から供給することができます。



【リアヒートシールド】  
壁とのクリアランスを狭めることができます。



【ウォーミングシェルフ】  
料理を温めたり、クッキンググリドルより薪をくべる時、鍋等を置くことができます。

# イントレピッドIIの基礎知識

## 2

### イントレピッドIIの機能と特長

#### ●燃焼をコントロールする3つのシステム

イントレピッドIIには燃焼効率を高めるために薪の燃焼状態をコントロールする3つの制御装置があります。

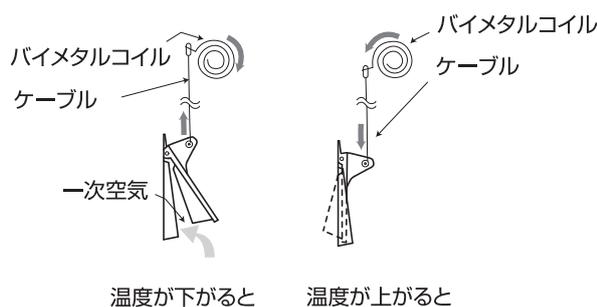
#### 1 一次空気制御システム

ストーブの後右側にある火力調節レバーで薪の燃焼に必要な一次空気の量を増減します。

ストーブに入る空気量が多いほど火はより強く燃え、空気量が少ないと弱くなります。

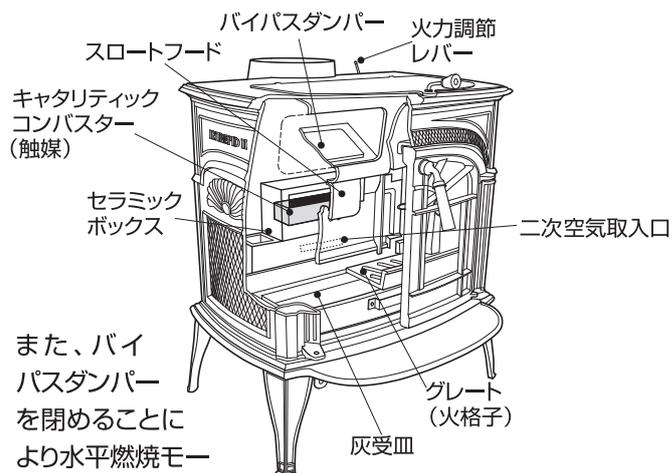
#### 自動温度調節機能(サーモスタット)

イントレピッドIIには一次空気調節レバーでどの位置を選んでも、その温度域で安定した熱出力を維持することができる自動温度調節機能が装備されています。燃料が燃焼するにつれ、バイメタルコイルはストーブ内部で放射される熱に反応し、一次空気取り入れを調整します。火の勢い(熱出力)が高まると、バイメタルコイルはゆっくりと一次空気取り入れ口を閉じ、燃焼用の給気量を制限します。火の勢いが弱まると(熱出力が減少し)、バイメタルコイルがこれに反応し、徐々に一次空気取り入れ口を開けるため、より多くの燃焼用空気が吸い込まれ火に勢いがかかります。この強弱作用は継続的に働き、燃焼周期は燃料が燃え尽きるまで続きます。



#### 2 バイパスダンパー

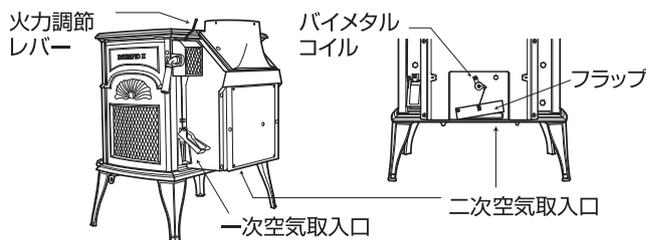
ストーブの右側にあるバイパスダンパーハンドルでバイパスダンパーを操作して、燃焼室内の排気の切り替えをおこない、キャタリティックコンバスター(触媒式排煙再燃焼装置)を起動/停止させます。(22ページをご覧ください。)着火時や薪の追加時には、バイパスダンパーを開き、垂直燃焼モードにします。



また、バイパスダンパーを閉めることにより水平燃焼モードに切り替わり、煙は燃焼室後部のキャタリティックコンバスターを通過する際に二次燃焼します(P19「2つの燃焼モード」参照)。薪の使用量を抑え、少ない薪から最大のエネルギーを引き出します。

#### 3 二次空気制御システム

イントレピッドIIは一次燃焼した燃料から放出される煙を触媒作用により再燃焼させます。二次空気は本体の背面下部のバイメタルコイルによって自動調節される給気口から取り入れられます。取り込まれた空気はセラミックボックスの底から前面を通り、通過する際に加熱され、煙が引き込まれるキャタリティック部に給気されます。バイメタルコイルの感知棒がセラミックボックス内の燃焼温度を感知し給気口(フラップ)の開閉をおこないます。

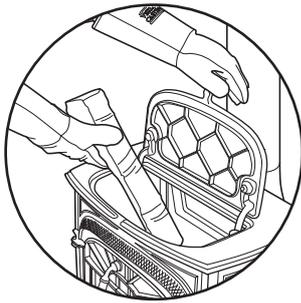


**注意** 自動温度調節機能は工場出荷時に適正な設定がなされており、設定を変更すると、過燃焼となり危険な状態になることがあります。調整は専門業者に御依頼下さい。

## イントレピッドIIの機能と特長

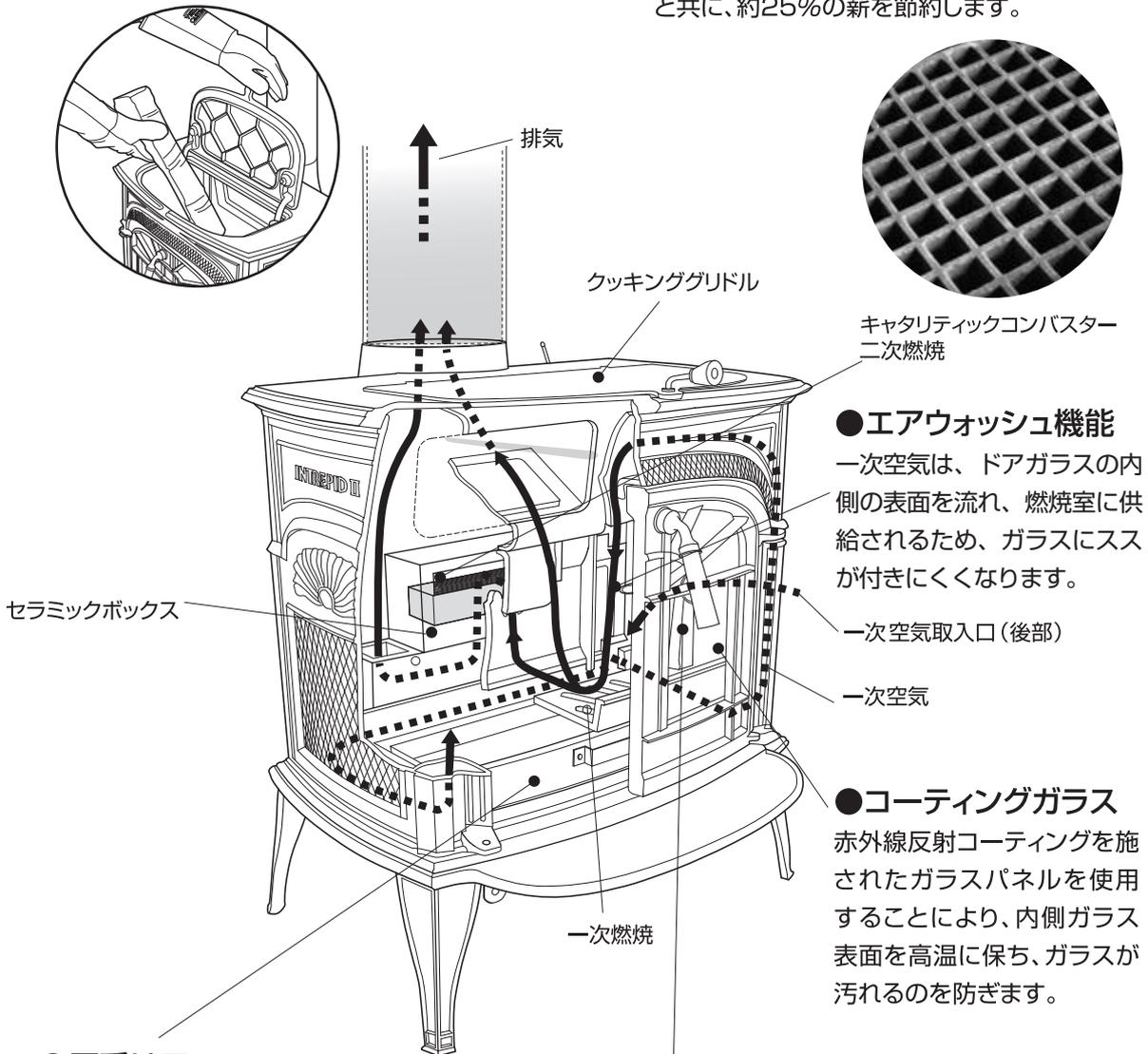
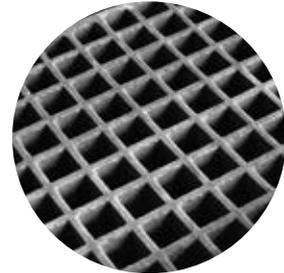
### ●トップローディング

開閉式のクッキンググリドルから楽な姿勢で安全に薪の補充ができます。このクッキンググリドルで料理をすることができます。



### ●触媒式の優れた燃焼効率

キャタリティックコンバスター（触媒式排煙再燃焼装置）を採用。煙に含まれるクレオソートや煤等の副生成物の90%を浄化。クリーンな排気を達成すると共に、約25%の薪を節約します。



### ●エアウォッシュ機能

一次空気は、ドアガラスの内側の表面を流れ、燃焼室に供給されるため、ガラスにススが付きにくくなります。

### ●コーティングガラス

赤外線反射コーティングを施されたガラスパネルを使用することにより、内側ガラス表面を高温に保ち、ガラスが汚れるのを防ぎます。

### ●灰受け皿

灰はグレーのすきまから灰受け皿に落とすことができるので、かき出す手間がかかりません。さらに、たまった灰は灰受け皿ごと取り出すことができるので、手や床を汚すことなく簡単に処理できます。

### ●アンダイアン

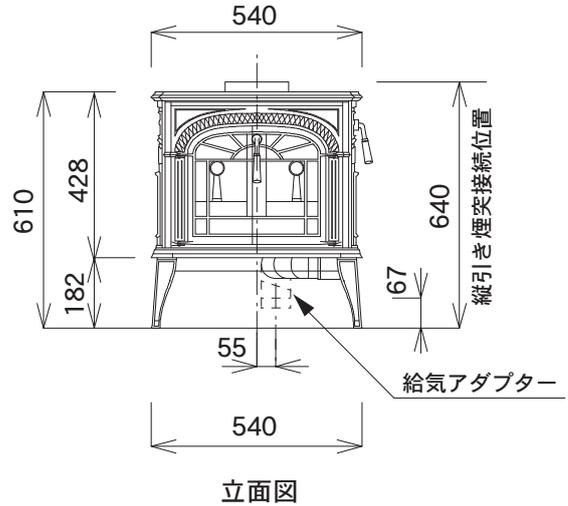
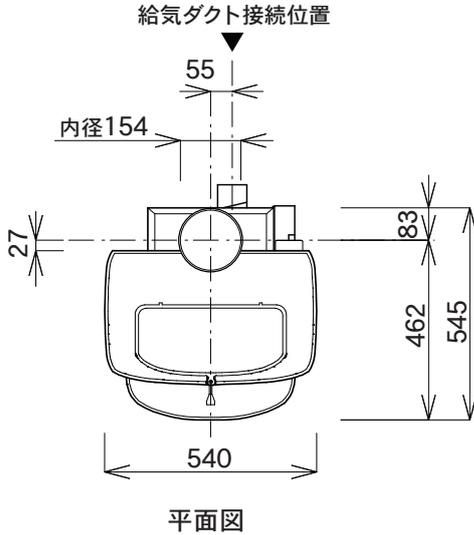
燃焼中、フロントドアを開ける際に薪がこぼれ落ちてくるのを防ぎます。また、ドアガラスの保護、燃焼空気の対流層を確保する役目も担っています。

# 本体及び煙突設置基準

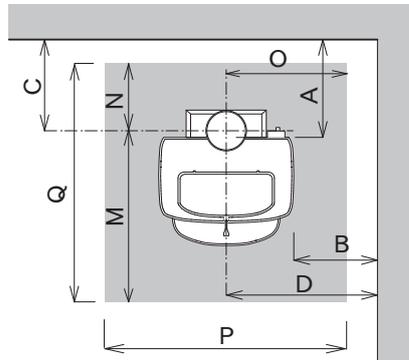
## 3

### 本体寸法図／仕様／設置基準

本体及び煙突設置基準



#### ●本体離隔距離



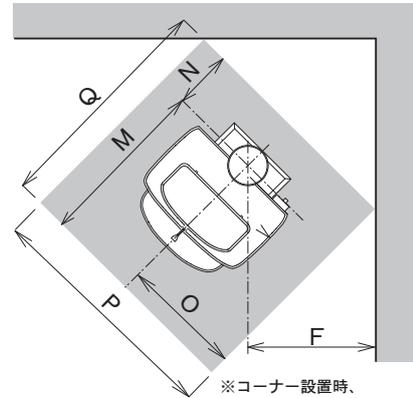
本体正面から122cm以内に可燃物（家具やカーテン等）を近づけないでください。

建築基準法施行令の内装制限により、壁、天井を木材等の可燃下地に準不燃材の仕上げを施した場合、および平屋、最上階など内装制限の規制を受けず、壁の仕上げが木材等の可燃材である場合は下表に示された数値以上の離隔距離を設けて下さい。仕上げと下地が不燃材料の場合は除外されます。

(mm)

壁仕上	煙突垂直接続		
	C	D	F
遮熱板なし	735	880	666
遮熱板なし+リアヒートシールド+煙突シールド	380	880	463
遮熱板あり	380	575	412
遮熱板あり+リアヒートシールド+煙突シールド	227	575	412

壁仕上	煙突水平接続	
	A	B
遮熱板なし+リアヒートシールド	356	610
遮熱板あり+リアヒートシールド	229	305



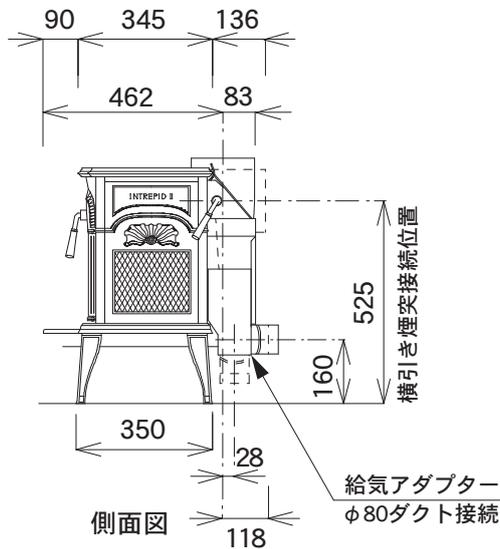
※コーナー設置時、煙突は垂直のみの接続です。

内装制限緩和の告示225号に従い、壁、天井を難燃材等（木材含む）の仕上げを施した場合は、下表に示された数値以上の離隔距離を設けて下さい。仕上げと下地が特定不燃材料の場合は除外されます。

(mm)

壁仕上	煙突垂直接続		
	C	D	F
遮熱板なし	846	964	921
遮熱板あり	383	575	458

- 壁仕上げなど詳細は建築基準法、同施行令に従ってください。告示225号に従って設置する場合前方離隔1151mm、上方離隔1080mm。
- 遮熱板とは25mm以上の空気層のある特定不燃材壁。
- 煙突シールドは本体接続部（フルカラー）より712mmまで。



### 仕様

- ◇ストーブ重量：101kg
- ◇燃料容量10kg
- ◇最大薪長さ41cm
- ◇最大出力6,750kcal/hr (7.8kW/hr)
- ◇最大暖房面積112㎡ (34坪)
- ◇燃焼効率81.1%
- ◇EPA廃棄物量2.1g/hr
- ◇接続煙突径φ150mm
- ◇キャタリティックコンバスター
- ◇引き出し灰受皿
- ◇自動温度調節機能
- ◇水平燃焼システム
- ◇ガラス・エアウォッシュシステム
- ◇耐熱セラミックガラス
- ◇トッローディング&クッキンググリドル
- ◇仕上げ：黒耐熱塗装またはハウロウ
- ※給気アダプターはオプションです。

### ●床：炉台（ステージ）の寸法

本体重量に耐えられる不燃材を敷いてください。不燃材は熱抵抗値Rが、0.105m K/W 以上になる厚みが必要です。目地にはモルタルをつめてください。

前面 M	後方 N	側面 O	幅 P	奥行き Q
830 以上	287 以上	474 以上	948 以上	1117 以上

### ●煙突基準

#### ●3メートル基準

煙突は、屋根を貫通する部分から90センチメートル以上高くし、さらに水平に測った周囲3メートル以内の障害物よりも60センチメートル以上高くしてください。

●煙突の高さはストーブトップから最低5メートルです。

●お住まいの地区の標高によっては、煙突をより高く立ち上げなければなりません。

●室内に使用する一重（シングル）煙突は本体より最長2.4メートルまでで、それより上部及び隠蔽部や屋外は二重断熱煙突を使います。一重（シングル）煙突では天井や壁を貫通させないでください。

●二重断熱煙突は煙突火災に対応した熱衝撃テストに合格した認定品（例：ULBS）をご使用ください。

### ●煙突離隔距離

		壁		天井
		遮熱板なし	遮熱板あり	
室内一重煙突	シールド無	660	305	660
	シールド付	254	150	—
断熱二重煙突（断熱層も含む）		150	150	150

- 断熱二重煙突の離隔距離は内側煙突からの寸法。
- 遮熱板とは25mm以上の空気層のある不燃材壁。
- 最低煙突高さはフルカラーより5m。

●煙突の水平に延ばす距離はできるだけ短くし、最長でも1メートル以内にしてください。

●90°の曲がり部分は、2ヶ所までにしてください。

### 重要 ▲

設置基準に従わない場合、煙突火災や住宅火災など、危険な状況を引き起こす場合があります。説明書の全ての内容に的確に従い、家屋及び人身をおびやかす結果となる一時しのぎの妥協は決して行わないでください。

煙突は建築物に対して十分な支持をし堅固に固定されていなければなりません。ストーブ本体は平らで水平な不燃床の上にガタつきがない状態で設置してください。地震の際に転倒、倒壊しない様、安全を確認してください。

# 薪について

## 使用する薪の条件

### ⊘ 自然薪以外の燃料使用禁止

乾燥した自然の薪以外は燃やさないでください。化学物質や塩分等が含まれている薪は、有害物質が発生し健康に害をおよぼすほか、破損の原因になります。

### ⊘ ガソリン厳禁

ガソリン、軽油、灯油、またはオイルなど引火しやすい油は絶対に使用しないでください。火災の原因になります。

### ● 薪の乾燥

切られてすぐの生木は、重量の50%が水分です。薪として燃やすには水分を20%以下まで乾燥させることが必要です。薪は割ることにより空気に触れる表面積が大きくなるのでより早く乾燥させることができます。割った薪は風通しが良く雨のあたらない屋根の下で、少なくとも12～18ヶ月は乾燥させてください。薪は太さや樹種にもよりますが、冬に切って2年間乾燥させた薪が理想の薪といえます。

乾燥していない薪は、薪ストーブの性能を十分に引き出すことができません。暖まりにくく、燃やすとクレオソートやススが多く発生し煙突内に付着するので、煙突掃除をこまめにしなければ「煙突火災」の原因になります。またドアガラスの汚れの原因にもなります。



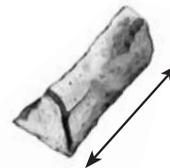
←含水率計  
針を薪に差し込むと薪の乾燥度がひと目でわかります。

### ● 薪の種類

薪は針葉樹系の軟木と広葉樹系の堅木とに分けることができます。軟木は乾燥しやすく着火力に優れていますが、火持ちがよくありません。堅木は、その逆の性質をもっています。十分に乾燥していても、なおズッシリと重い薪が質量に富み、暖房用には優れた薪といえます。

堅木	軟木
火持ちがよく 暖める力が大きい	火持ちはよくないが すぐに火力がでる
(広葉樹) ・ミズナラ ・ニレ ・アカシア ・コナラ ・カキ ・クスノキ ・クヌギ ・ブナ ・サクラ 等	(針葉樹) (広葉樹) ・カラマツ ・ヒノキ ・シラカバ ・アカマツ ・ポプラ ・スギ 等 等

### ● 使用する薪のサイズ



長さ：41cm以下

温度や燃焼時間を調節するために、大きく分けて「焚き付け用」「中くらい」「長時間用」の3種類の薪を用意します。

たき火の火を起こすように細い薪や枯れ枝に着火し、徐々に太い薪をくべていきます。薪を使い分けることで、薪ストーブの温度や燃焼時間を調節しやすくなります。



焚き付け用の細い薪  
(小枝や細く割った針葉樹など)



中くらいの薪  
(直径約5cm以内の小枝や細く割った針葉樹など)



長い時間燃やすための太い薪  
(直径約10cm程度の広葉樹など)

#### 注意

屋外で保管されていた冷たい薪や濡れた薪をストーブにくべないでください。燃焼状態が悪くなり暖房効率が落ち、ストーブに熱衝撃を与え破損することがあります。室内で半日以上経過した薪をご使用ください。



詳しくは  
ホームページで

「薪づくり」

## 薪作りのための斧と薪割り



## 【手斧】

片手用の小型斧。焚き付け用に薪を細く割ったり、細枝を切ったりするのに便利。

【薪割り鉋<sup>づち</sup>】

斧頭が鉋を兼用する薪割り。割れにくいときは、この斧頭で楔を打ち込んで割ります。



## 【小型薪割り】

両手、片手兼用の薪割り。小径木の玉割り材を割るときに。

【薪割り楔<sup>くさび</sup>】

薪割りでは割りにくい薪を割るための鋼鉄製の楔。2本の楔があれば、ほとんどの薪を割ることができます。



## 【大型薪割り】

両手用の本格的な薪割り。



- キンドリングクラッカー  
焚き付けが安全に、しかも手軽に作れます。

動画で  
Check!



「キンドリングクラッカーの  
使い方」

## ●薪を入手するためのヒント

- ・地元の森林組合、または営林署に問い合わせる購入する。
- ・薪業者（燃料屋）から購入する。
- ・チップ工場に問い合わせるか、原木を納入している業者に卸してもらう。
- ・果樹園で剪定した木を譲ってもらう。
- ・山林地主と知り合いになり、間伐材を譲ってもらう。
- ・地元の役場に問い合わせる、公園の木や街路樹の剪定枝を払い下げてもらう。

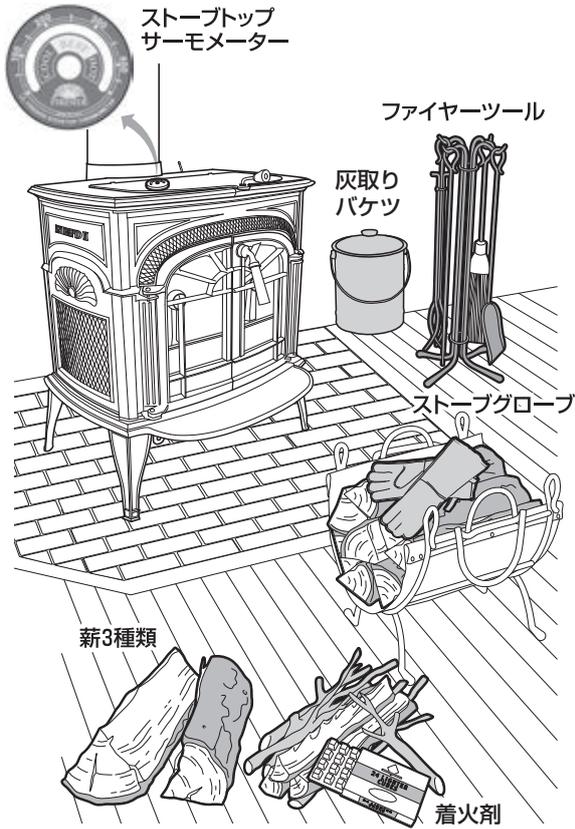
# 薪の着火と燃焼維持

5

着火の前に用意するもの

慣らし焚き

薪の着火と燃焼維持



## ●ストーブトップサーモメーター

ストーブの状態を知るのに欠かせないツールです。燃焼モードの切り替え時期や火力調整操作のタイミングの目安になります。過燃焼の危険な状態が一目でわかります。

## ●ファイヤーツール

火かき棒 / 炉の中の薪の位置を変えたい時に。  
スコップ / 灰をすくう時に重宝します。  
ほうき / ストーブまわりのお掃除に。  
灰かき棒 / 炉の中の灰を灰受けに落としたり、  
灰をかき集めるのに使用。  
薪ばさみ / 炉内に薪を入れる時に使用。

## ●ストーブグローブ

熱に強い革の素材の物が適しています。薪をくべる時やハンドル、レバーをつかむ時に熱さから手を保護してくれます。

## ●灰取りバケツ

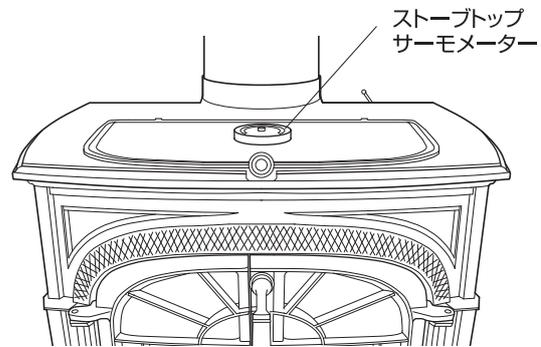
密閉できる金属製の容器を必ず使用します。

## ●薪3種類 →P14

## ●着火剤

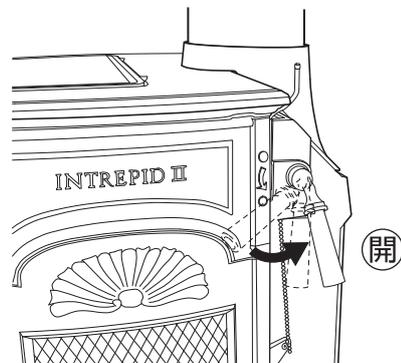
ストーブを本格的に焚く前には、必ず「慣らし焚き」を行ってください。

新しいストーブを、一気に高温で焚くと、鋳物同士のひずみや破損の恐れがあります。ストーブトップ・サーモメーターが260℃以下の状態で3~4回にわけて焚き、温度の上昇と冷却を繰り返すことにより、鋳物と耐火セメントを馴染ませることができます。この慣らし焚きを行うことにより耐久性が向上します。



運転に必要な温度情報（ダンパー開閉のタイミングや焚きすぎの目安）を得る場合、温度計は必ずクッキンググリドルの中央付近に置いてください。例としては、クッキンググリドルとフルーカラーの間に置かれていることがありますが、この位置ですと、50℃~100℃温度が低くなり、運転に必要な情報が得られません。特にストーブトップで調理をする場合、以上の点をご留意下さい。（イラスト参照）

1 バイパスダンパーハンドルを後ろに押し、ダンパーを開けます。

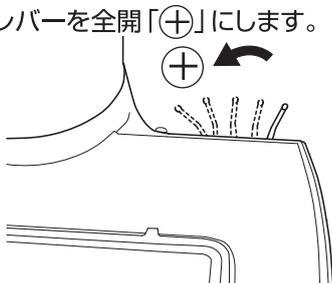


## 慣らし焚き

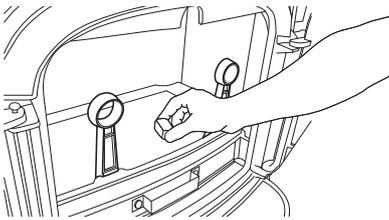
**ポイント** 「慣らし焚き」の間は、ダンパーを開けたままにしておきます。

**注意** 燃焼を始める前にお部屋の外気取り入れ用の給気口を必ず開けてください。部屋に煙がもれることがあります。

**2** 火力調節レバーを全開「+」にします。



**3** フロント・ドアを開け、着火剤1~2個を入れます。

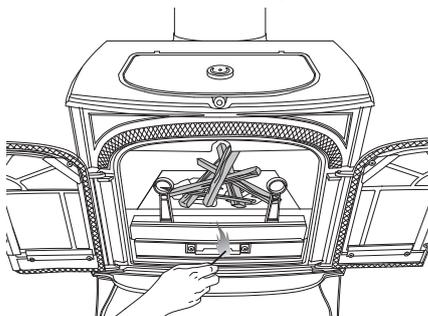


**4** 着火剤の上に4~5本の「焚き付け用の薪」をのせます。

**5** 隙間を空けながらさらに2~3本の「中くらいの薪」を組みます。

**ポイント** 燃焼空気の通りが良くなるように隙間をあけて薪を配置してください。

**6** 着火剤に点火してください。薪に着火したことを確認したらフロントドアを閉めます。



**ポイント** 慣らし焚きの場合は、これ以上薪を入れるのをやめ、ストーブトップ・サーモメーターが260℃以上にならないよう火力調整レバーで空気を調節します。そのまま薪が燃えつきるまで放置して、火が消えてから30分程冷まします。着火からこまでを3~4回繰り返します。

**注意** この時、ストーブや室内煙突の錆び止め油や塗料が加熱されて、においと煙が発生します。使用を始めてからの数回は窓を開けるなど、お部屋の空気を十分に換気してください。

## うまくつかない、燃えない、逆流する!?

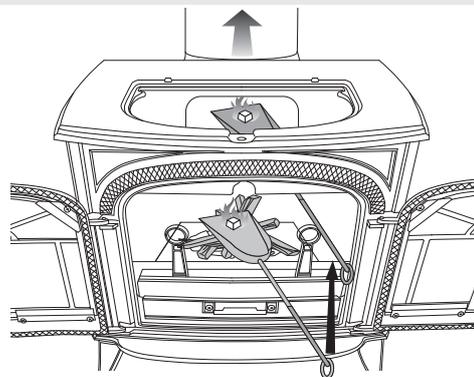
煙突が冷えていると、ドラフト(上昇気流)が弱く、うまく着火しない、燃えない、逆流するなどの問題が起こる場合があります。このような場合は、バイパスダンパー付近に火をかざし煙突をよく暖め、ドラフトを発生させる手助けをします。慣らし焚きの手順**5**の段階で下の手順で煙突を暖めてください。

**1** ファイヤーツールのシャベル等の上で着火剤を燃やします。

**2** クッキンググリドルを閉めフロントドアを開けた状態で、ダンパー付近に着火剤の火をかざし、煙突をよく暖めます。

**3** ドラフトが発生したら着火方法**6**に従い、薪の着火を始めます。

**ポイント** ドラフトが発生すると着火剤の火が煙突方向に引き寄せられます。



# 薪の着火と燃焼維持

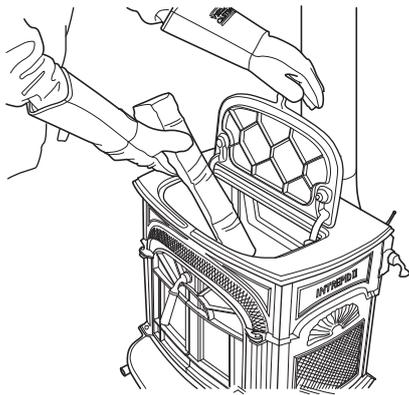
## 5

### 焚き方

薪の着火と燃焼維持

「慣らし焚き」の**1**～**6**の手順で着火を行います。

**7** 薪全体に火が行きわたり、勢いよく燃えてきたらクッキンググリドルを開け、上から中～太い薪を数本足します。

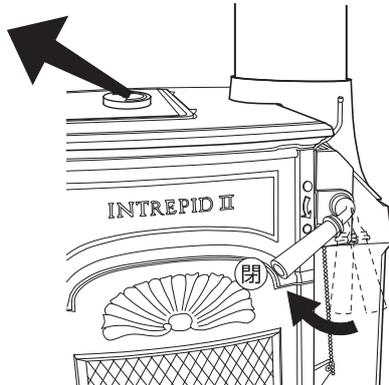


**ポイント** 薪を足した後は、グレート(火格子)の上に燃えさしがたまるまで、十分に火を燃やします。

**8** 真っ赤な燃えさし床が火床全体にできるまで、薪の補給を続けます。1時間以上経過してストーブトップ・サーモメーターが230℃を超えていたらバイパスダンパーを閉めます。

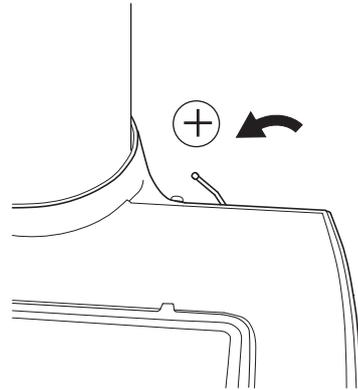


ストーブトップ  
サーモメーター



**ポイント** キャタリティックコンバスターが作動するにはストーブが全体に熱くなり十分な燃えさし床が必要です。

**9** 火力調節レバーを「**+**」のまま、5～15分くらい燃やします。その後火力調節レバーを調整します。



**注意** バイパスダンパーを閉めてから、すぐに火力調節レバーを絞るとキャタリティックで異常燃焼することがあります。(22ページ参照)

**ポイント** ストーブトップ・サーモメーターの温度が350℃以上にならないように必要に応じて火力を調節してください。ストーブが部分的に赤熱している時は過剰燃焼です。火力調節レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

**注意** 350℃以上で継続して使用するとストーブ本体の破損の原因となります。一時的に350℃を越えるのは問題ありません。

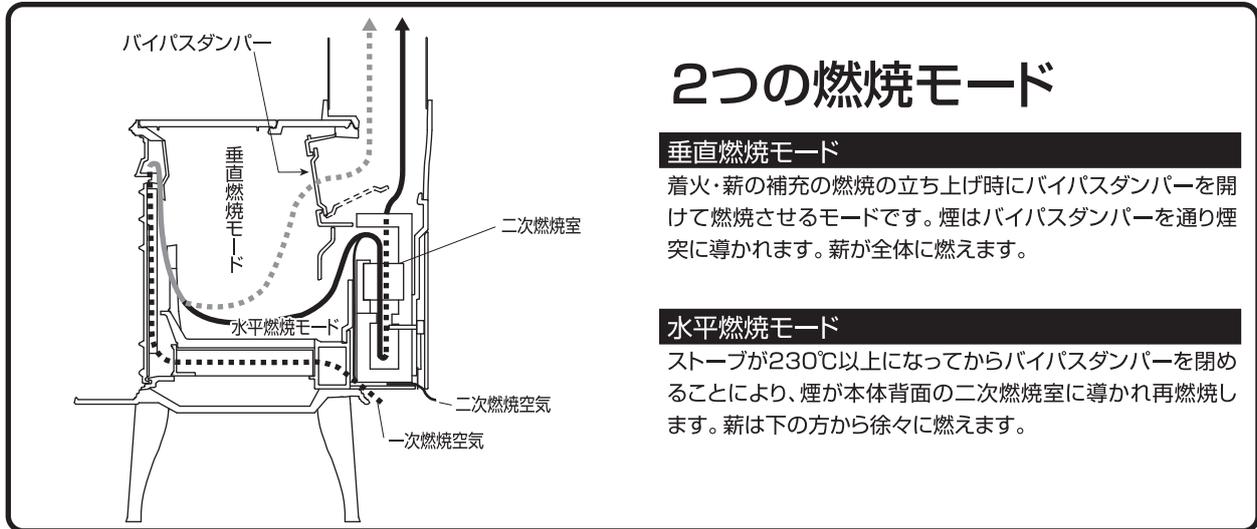
**注意** バイパスダンパーを閉めたまま各ドアを開けないでください。

**注意** バイパスダンパーは完全に開けておくか、完全に閉めておきます。中間位置はありません。バイパスダンパーを閉める際は、ハンドルがロックするまでしっかりと回転させてください。

**注意** クッキンググリドルを開けている時には必ず手で押さえてください。手をはなしますとクッキンググリドルが閉まり破損やおもわぬケガをする恐れがあります。

**注意** ストーブ内に薪をいっぱい詰めないでください。アンダリアンより上にならないようにしてください。バイパスダンパーを閉めた時に高い温度での燃焼が続き、キャタリティックコンバスターが劣化する恐れがあります。

## 焚き方



## 2つの燃焼モード

## 垂直燃焼モード

着火・薪の補充の燃焼の立ち上げ時にバイパスダンパーを開けて燃焼させるモードです。煙はバイパスダンパーを通り煙突に導かれます。薪が全体に燃えます。

## 水平燃焼モード

ストーブが230℃以上になってからバイパスダンパーを閉めることにより、煙が本体背面の二次燃焼室に導かれ再燃焼します。薪は下の方から徐々に燃えます。

## ●ストーブトップ・サーモメーターの温度について

230℃

ストーブ温度はキャタリティックコンバスターの燃焼を開始する温度に達し、バイパスダンパーを閉める温度です。

175℃  
以下

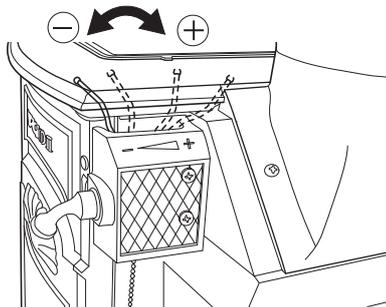
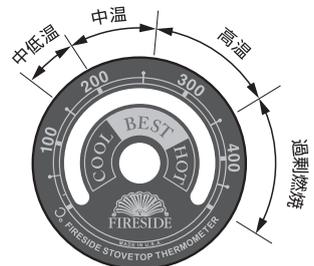
火力が弱いです。火力調節レバーで燃焼出力を上げるか、ストーブに薪を補給する温度です。

350℃  
以上

過剰燃焼です。火力調節レバーで給気量を減らし燃焼出力を下げてください。

## 温度目安

150～200℃	中低温
200～260℃	中温
260～350℃	高温



## 注意

火力調節レバーを閉じる方向「 $\ominus$ 」にしても火力が下がらない場合には点検が必要です。薪の補充はしないで薪が燃えつきたらメンテナンス(P28～)を参考に点検を行ってください。不明な場合には販売店にご相談ください。

お客様のストーブ設置状態により、火力調節レバーの位置と温度の関係は異なります。「薪の質」や「煙突のドラフト(上昇気流)の状態」などにも左右されます。ドラフトは煙突の長さ、種類、設置状況、地形、付近の障害物など様々な要因に影響されます。ストーブを初めて使う際は、火力調節レバーの記録を取ることをお勧めします。特定の設定で一定の熱量を得る方法が分かります。1～2週間ほどで、個々の設定から得られる熱量と燃焼時間を判断できます。

## 煙突ダンパー設置

状況(煙突・薪・気温など)によって、ドラフトが強すぎる場合があります。煙突ダンパーはドラフトを適正に制御することが可能です。販売店にお問い合わせください。(23ページ参照)

# 薪の着火と燃焼維持

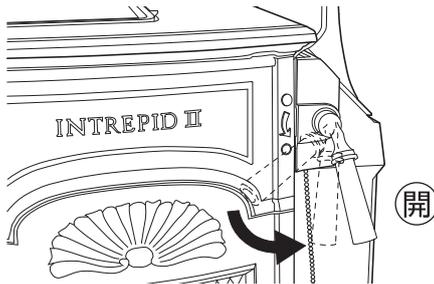
## 5

### 薪の補充

薪の着火と燃焼維持

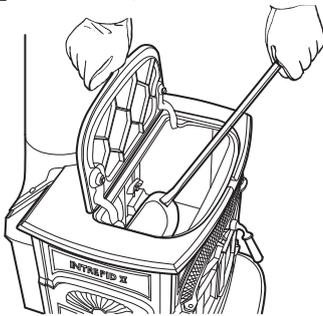
**ポイント** 着火に十分な赤い燃えさしがストーブ内に十分残っている間に薪を補充します。

**1** バイパスダンパーを開けます。

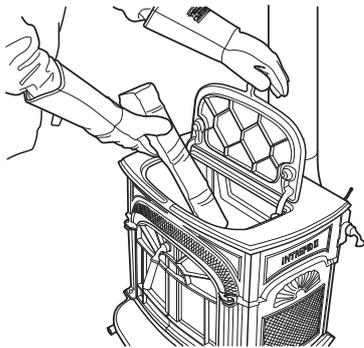


**注意** バイパスダンパーを開けないと煙が逆流します。

**2** クッキンググリドルを開け、ファイヤーツールでおきを広げます。クッキンググリドルが閉まらない様に手でおさえてください。



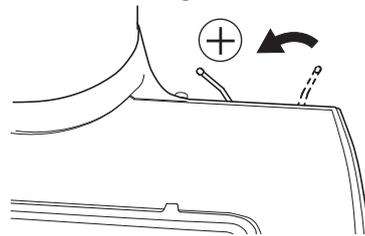
**3** 「中くらいの薪」をくべた上に「太い薪」を足します。こうすることによって、ストーブが燃焼温度をすばやく回復出来ます。



**注意** ストーブ内に薪をいっぱい詰めないでください。アンダイヤンより上にならないようにしてください。バイパスダンパーを閉めた時に高い温度での燃焼が続き、キャタリティックコンバスターが劣化する恐れがあります。

**注意** 暖炉風にドアを開放して燃焼させる場合は中くらいの薪なら3本、太い薪では2本程度で必ずファイヤースクリーンを装着してください。

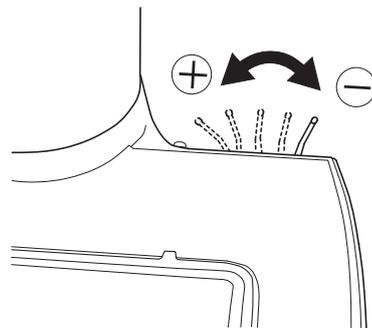
**4** 火力調節レバーを「+」にします。



**5** ストーブトップ・サーモメーターが230℃以上になったら、バイパスダンパーを閉めます。



**6** 火力調節レバーは「+」のまま、5～15分ぐらい燃やします。その後、火力調節レバーを調節します。火を強くするには、レバーを「+」にします。弱く、長く保ちたい場合は、レバーを「-」にします。



## 消火

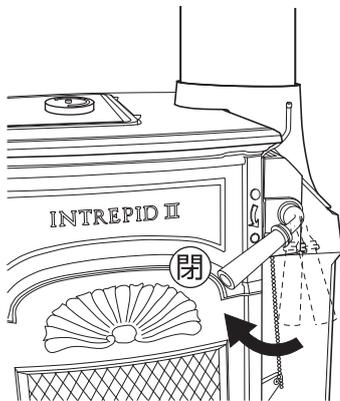
薪ストーブは、ガスストーブや石油ストーブのように瞬時のうちに消火することはできません。薪が燃えつきた時が消火を意味します。

薪ストーブを消火する時は薪をくべるのをやめ、二次燃焼モードにし（ダンパーを閉じ）火力調節レバーを閉めます。燃焼空気の供給が少なくなり、火の勢いが徐々に落ち、ゆっくりと燃えつきます。

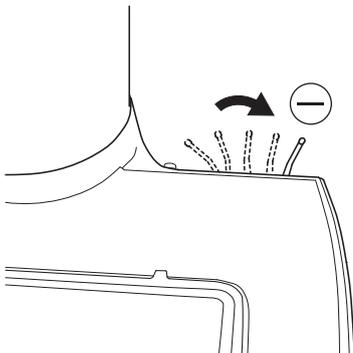
**注意** ストーブ本体や炉室内に水をかけて消火するのは非常に危険です。また、このような急激冷却による消火はストーブ本体に重大な損傷をもたらします。

**注意** 自動温度調節機能により燃焼空気の供給は完全に遮断されません。燃焼空気を遮断して消火する事は出来ません。燃えつきるには時間がかかります。

**1** バイパスダンパーを閉じます。



**2** 火力調節レバーを「 $\ominus$ 」にします。



## 灰の処理

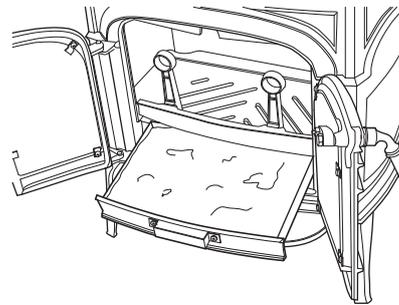
定期的に灰の除去をおこなうことは、ストーブの耐久性にも重要な作業です。灰受け皿の縁まで溜まる前に以下の手順に従って処理してください。また、数日ごとにグレートの灰をスコップや灰かき棒で火格子からかき落とし、ストーブ内部の灰を取り除きます。

**注意** 危険ですから燃焼中は灰の処理を行わないでください。

**注意** ストーブが完全に冷えた状態で行ってください。

**1** フロントドアハンドルを右に回し、両側のフロントドアを全開にします。

**2** 灰受け皿ごと手前に静かに引き出し灰取バケツ等に灰を移します。



**注意** 灰は火の気が完全に消えたことを確認のうえ、不燃性の密閉できるフタの付いた灰取バケツに入れて、72時間以上おいてから冷えていることを確認のうえ処理してください。また、灰取バケツは必ず厚さ5cm以上の金属以外の不燃材の上に置いてください。可燃材の上に置くとバケツ底面の熱が伝わり、火災の原因となります。

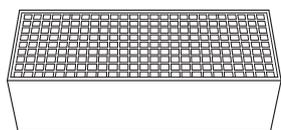
**注意** 灰をためすぎるとキャタリティック・コンバスターの目詰まりの原因になります。

# 薪の着火と燃焼維持

5

## キャタリティック・コンバスター（触媒式排煙再燃焼装置）について

薪の着火と燃焼維持



薪が燃焼するのに必要な条件は、じゅうぶんな温度と酸素が必要になります。通常の燃焼反応は540-650℃の範囲で起こりますが、触媒を用いると260-315℃と低い温度範囲から始まります。触媒はそれ自体変化しませんが反応を早め効率を上げる働きがあります。二次燃焼室の中で触媒は煙の中に含まれるクレオソートや煤等の副生成物を効率的に燃焼させます。触媒を使った反応を得るには、反応物質がキャタリティック・コンバスター表面に施されている被膜（白金又はパラジウムのコーティング）と接触することが必要になります。また接触する表面積が広い方がより反応し易く、高い効果を得ることができます。このことからキャタリティック・コンバスターの形状はより多くの表面積を得られるようにハニカム（蜂の巣）状になっています。

キャタリティック・コンバスターの機能低下は、煙突から出る煙の状態が目安になります。効率よく機能しているときには、煙が無色で透明に近い状態ですが、低下してくると灰色になります。キャタリティック・コンバスターの機能低下には次の様な原因があります。

### ●目詰まり

蜂の巣型は効率の良い触媒反応を得られる一方、燃焼ガスの流れに対する抵抗が増すこととなります。また表面積が多い分クレオソートや煤が堆積する場所も多くなります。適切な操作を行い、このような堆積物を最低限に抑え、目詰まりの兆候がないか定期的に点検してください。そのまま放置しますと、ダンパーを閉じた際に煙が室内に逆流する恐れがあります。

### ●汚染物質

塗装や加工処理を行なった木や、石炭、家庭のゴミや、色紙、金属ホイル、プラスチックなどを燃やす

と、鉛や硫黄などの汚染物質がキャタリティック・コンバスターの表面に付着する場合があります。そのような汚染物質でキャタリティック・コンバスター表面の被膜が覆われていると触媒反応は正常に機能しません。このような汚染物質の原因となるものは燃やさないでください。

### ●熱衝撃

キャタリティック・コンバスターは直接の炎にさらされるようには設計されていません。ストーブを過剰燃焼し続けると、表面の皮膜が剥がれ、触媒反応が妨げられる場合があります。スロートフード（40ページD8）は直接の火からキャタリティック・コンバスターを保護する役割を持つため、スロートフードを外した状態、あるいは破損した状態で使い続けないでください。

### ●一次空気の不足

二次燃焼室内におけるキャタリティック・コンバスターの役割は、あくまで一次燃焼室内で燃えきらない未燃焼ガスを再燃焼させるための機能です。高い燃焼効率とは燃焼ガスに対する適切な空気量によりクリーンな燃焼を得ることで、二次燃焼室の構造を持っているストーブの多くは、ある程度一次燃焼室内で燃焼を起すことが重要となります。例えば、一次燃焼室への空気を必要以上に遮断した場合、二次燃焼では処理できないほどの大量の未燃焼ガスによって、燃焼効率の低下や極度の過剰燃焼につながり、キャタリティック・コンバスターやセラミックボックスを破損させる原因となります。この場合、火力調整レバーを開けて一次燃焼に必要な空気を供給するか、補充する薪の量を少なくしてください。（参考26ページ「バックパフイング」）

### ●物理的な破損

キャタリティック・コンバスターはデリケートな素材で作られておりますので、変形に注意して取り扱ってください。

## エアコントロールについて

設置方法がストーブ性能にどのように影響するかについては、24ページの「ドラフト管理」をご覧ください。ドラフトが過剰だと、ストーブ内が高温になり、燃焼室が破損する恐れがあります。一方、ドラフトが不十分だと部屋の中への煙の逆流（バックパフィン）が起きたり、煙突や燃焼室が「詰まる」恐れがあります。

ドラフトが過剰な場合の兆候としては、火力調節レバーで制御不可能な燃焼や、ストーブの一部スロートフードとキャタリティックコンバスター以外が赤熱することが挙げられます。また、弱いドラフトの兆候としては、ストーブや室内煙突接合部からの煙の漏れ、弱火、ガラスの汚れなどが挙げられます。

断熱性能の高い住宅の場合、住宅内でストーブが十分な空気を得られず、ドラフトが弱まる場合があります。その場合、住宅の風上側にあるストーブ付近の窓を開けることで、必要となる空気を取り入れることができます。またオプションの給気アダプターを使い、空気を戸外から直接ストーブに引き込むこともできます。

### 煙突ダンパー設置

状況（煙突・薪・気候）によって、ドラフトが強すぎる場合には煙突ダンパーを設置してドラフトを適正に制御することが可能です。

ドラフトの弱い煙突や気密の高い住宅、ストーブと同一の部屋に換気扇が設置してある場合など室内の気圧がマイナスになる状況では煙突ダンパーの設置は必要ありません。場合によっては排気が室内に流出し危険をとまなう事があります。販売店にお問い合わせください。



# ドラフト管理

6

ドラフト管理

ストーブは使用者、煙突、燃料、そして住宅などから構成されるシステムの一部です。

システムのあらゆる部分がストーブの作動状態を左右します。これらの要素がうまく調和して初めて全体のシステムが適切に機能します。

暖炉・薪ストーブの機能は自然のドラフト（上昇気流）で決まります。ドラフトは煙突のトップの外気温より、煙の温度が高い場合に生じます。その温度差が大きいほど、ドラフト作用も大きくなります。煙突内を煙が上昇するにつれて、燃焼用の空気をストーブに引き込む吸引力が生じます。

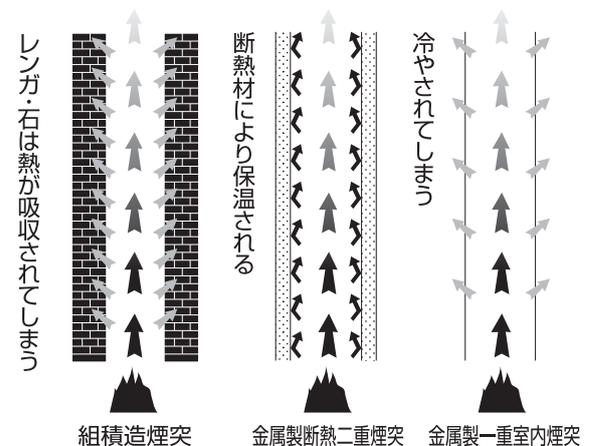
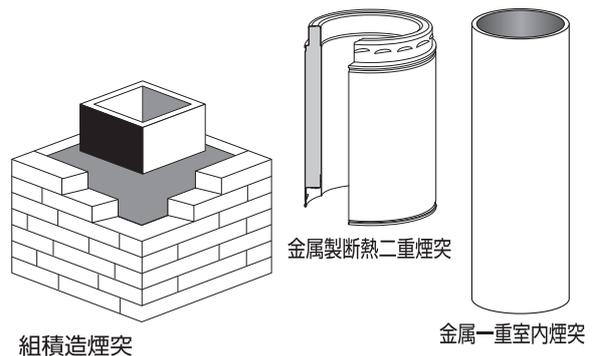
ストーブの給気口を全開にした状態にもかかわらず、燃焼速度が遅い場合はドラフトが弱い証拠です。給気口を開くことによって火が活発化する場合は、ドラフトが適切であることを意味します。ドラフトが弱い場合、給気口を開いてもストーブ内に空気を取り入れることが出来ず、火の調節は出来ません。

煙突の種類、煙突径や設置場所・外気温などによって、煙突は早く温まる場合もありますし、正常なドラフトが得られる温度に達するまで時間がかかる場合もあります。ストーブ内に入る空気量を制限する「気密性の高い」ストーブを正常に機能させるためには、煙突が煙を適切に保温する必要があります。煙突の種類によってこの効果は異なります。以下に特徴とその効果を挙げます。

## ●組積造煙突（石・レンガ等）

組積造煙突は欧米で長い間使われてきた煙突ですが、気密性の高い薪ストーブに使った場合、効果はあまり期待できません。石やレンガは性質上、大量の熱を吸収します。そのため、中を通る煙は冷却されるので、ドラフトを減少させてしまいます。このことは金属一重（シングル）煙突にもいえます。煙突は大きいほど、温まるのに時間がかかります。

戸外に設置された組積造煙突、特に大きめの物は、暖めるのが非常に困難で、適切なドラフトを得られるだけの温度を維持することは困難です。



## ●金属煙突

工場生産された金属煙突の多くは、内側煙道に断熱材の層があり、この断熱材が煙を保温します。また、この断熱材は石やレンガより密度が低いので、金属煙突は組積造煙突より早く温まります。金属煙突は石やレンガより外観が劣りますが、効果はより優れています。現在は木造にて金属煙突に囲いを作り、表面にレンガタイルを張る等して、外観を組積造煙突風に仕上げる場合もあります。これも保温効果としては有効です。

### ●屋内／屋外の設置

煙突は煙を保温する必要があるため、できるだけ屋内を立ち上げるのが有効です。この方法は、住宅自体が煙突の断熱材の役割を果たし、屋外に熱を失うことがないため、より少ない熱量で煙突を暖め、また保温することができます。

### ●煙突の高さ

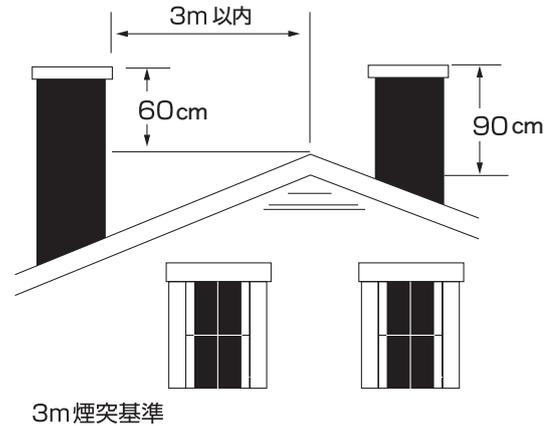
煙突の高さは最低5m以上とし、「60cm、90cm、3m煙突基準」の安全条件を十分満たしていれば、有効なドラフトが得られると考えられています。この基準はドラフトばかりではなく煙突火災時の煙突周り延焼防止になります。煙突の高さは高い方がより良いドラフトを生むと考えがちですが、基準以上に高さを加えることはドラフト問題の正しい解決策ではありません。実際、問題を悪化させることもあります。高い先の方の煙突が冷えてしまうからです。煙突の高さは必要以上に伸ばさない方が良いでしょう。

### ●煙突径

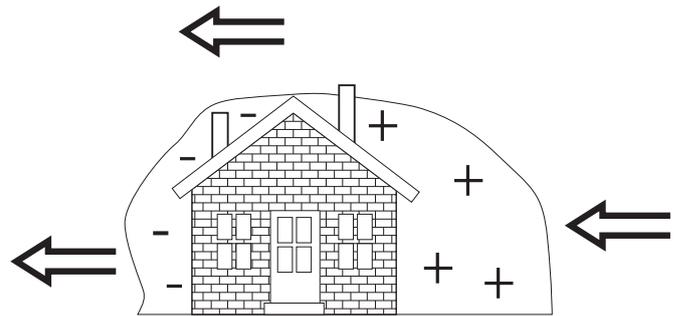
煙突の内側寸法は、ストーブの排気口寸法と一致しなければなりません。煙突が気密性のあるストーブに接続される場合、大きめの寸法は好ましくありません。それどころか、不利になる場合があります。煙は膨張により熱を失います。内径150mmの煙突を付けたストーブを250×250mmの煙道につなげると、ガスは本来の規模より3倍膨張します。この場合、煙が冷却され、ドラフトは弱まります。

### ●煙突のレイアウト

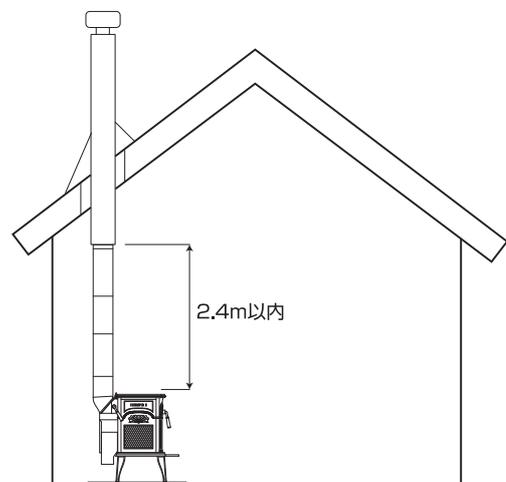
煙は煙突のトップまで上昇する過程で、曲がりがあるたびに速度が落ちます。理想的な煙突のレイアウトはストーブから垂直に真直ぐ伸ばす方法です。室内煙突（シングル煙突）を使用する長さはストーブトップから2,400mmまでとします。これより長いと煙が冷却されドラフトが弱まり、またクレオソートの問題が生じます。



3m 煙突基準



※風がふくと建物のまわりは圧力の差ができます。煙突はこの風圧帯より上まで立ち上げる必要があります。



※2.4m以内はメーカーの推奨値。現場により異なります。

# ドラフト管理

6

ドラフト管理

## ●単一排気

ストーブにはそれぞれ専用の煙突が必要です。気密性のあるストーブが他の開放型の暖炉やストーブの煙突に接続されている場合、煙突のドラフトは気密性の高いストーブ以外の別の経路から空気を引き込むため、効果が落ちます。ホースに穴が開いた電気掃除機を仮定すると、この状況をよく理解することができます。場合によっては、煙が逆流する恐れもあります。

## ●クレオソート

クレオソートは薪（特に湿った）がゆっくり燃焼した時に生じます。煙の濃度が高い、または排気の手が遅く、煙が130℃以下に冷やされると、煙突内に蓄積する有機タールです。蓄積されたクレオソートは揮発性で、一定の温度以上に加熱されると煙道火災を発生させる恐れがあります。

煙突のドラフトを左右する全ての要素は、クレオソートの蓄積にも影響します。従って、正しい煙突レイアウトと燃焼操作で適切なドラフトを促し、クレオソートの発生を最小限に抑えてください。

## ●燃料

最適な方法でストーブが設置されていても、燃料の質が悪いと効果が出ません。最適な燃料は、12-18ヶ月間乾燥させた堅木です。軟木でもかまいませんが、堅木ほど火持ちが良くありません。

「乾燥させていない」薪は大量の水分を含んでいるため、熱量が薪に残る水分の除去に使われてしまいます。結果的に、暖房にまわる熱量が削減され、煙突内部の温度も上がり、クレオソートの原因となります。薪用の水分計といったものもありますが、見た目や重量からも乾燥具合を判断することができます。乾燥させていない薪を1本持ち上げて重量を感じ取ります。乾燥した薪の重量は約2/3になります。この他、薪の切り口を観察します。乾燥するにつれて、収縮し、ひび割れが出てきます。ひびの入った薪は

乾燥していることになります。

## ●バックパフィン（空気の逆流）

煙突のドラフトが炉内から燃焼ガスを引き出すより早い速度で、薪が揮発性ガスを発生させた場合にバックパフィンが生じます。ガスは点火に十分な濃度と温度になるまで、炉内に待機します。ストーブがバックパフィンを起こした場合は、ダンパーを開けて煙を早く煙道へ送り、炉へ空気を入れ、大きな薪の使用を避けてください。炉の中の炎は常に鮮やかにゆらめいている状態に保ちます。煙が多く速度の遅い火は効率が悪く、煙突内にクレオソートを堆積させます。

## ●ドラフト試験

煙突ドラフトの簡単な試験方法は、ストーブのダンパーを閉め、気流が安定するまで数分待ってから、火力調節レバーを開け閉めして、火の強弱が調節できるかどうかを観察する方法です（火力調節レバーを操作してから、火の状態が変わるまで数分かかることもあります）。火が調節できない場合、ダンパーを閉めるタイミングが早く、まだドラフトが足りないのかもしれないかもしれません。ダンパーをもうしばらく開けておき、ドラフトが強くなるまで待ちます。

燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作状態を関係付けていくと、お客様の設置状況に合った燃焼方法が見つかるでしょう。

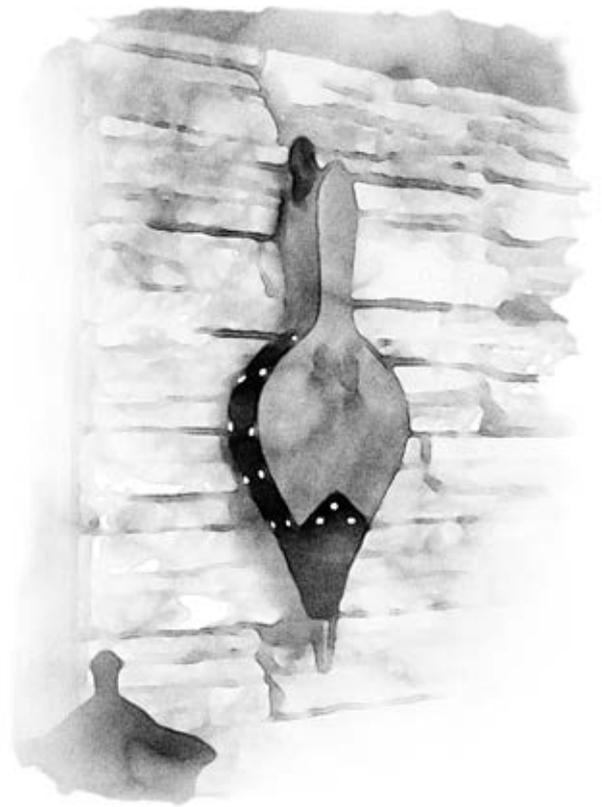
## ●負圧

最適なドラフトはストーブへの給気量にも関係します。煙突は自然に得られる空気だけを引き込むことができます。住宅の気密性が高く、ストーブへの給気が妨げられる場合や、室内空気を屋外に排出する他の設備（特にレンジ・フード、衣類乾燥機、機械換気設備のような動力駆動設備）がストーブと空気を取り合う場合、ドラフトの障害になります。ストーブ以外のそうした設備の運転中に、ストーブが十分な空気

を取り込めるのであれば問題はありません。近くの窓やドアを開けないと煙突が十分な空気を取り込めないのであれば、外気取り入れ口を設置したり、オプションの給気アダプターを取り付け、燃焼空気を直接ストーブに引き入れる必要があります。

### ●ドラフト管理

ストーブで薪を燃やすということは「機械的な機能」というより「使用者の技術」です。ストーブと煙突が適切に設置されていれば、後は技術（操作のタイミング）を向上させればストーブのシステム全体の機能はより高くなります。システムを構成する要素によってそれぞれ違う、ストーブの特性にあった適切な技術を得るために、燃焼状態の記録を取り、それぞれの燃焼状態とストーブ操作を関連付けていくと、より満足の行く効果を得ることができるでしょう。



# メンテナンス

## 7

### メンテナンス・スケジュール

メンテナンス

ストーブ及び煙突を永くお使いいただくためには定期的なメンテナンスが必要となります。下記のスケジュールに従って、継続的なメンテナンスを行っていくことをお勧めします。また、メンテナンス項目の中にはストーブ販売店に依頼する内容も含まれておりますのでストーブ販売店名が記入されている保証書を大切に保管してください。

日常メンテナンス		
お客様が日常ご使用の中で必要に応じて行います。		
点検項目	要領	方法
①ドアガラス清掃	煤・タールの除去／ 破損の有無	P29参照
②灰受け皿	溜まった灰の処理	P21参照
③各ハンドル	ネジの点検	各ネジを点検し、緩んでいる場合は、増し締めを行う。

シーズン前点検 (使用状況によりシーズン中の点検や調整・交換修理が必要になります。)		
お客様自身もしくはストーブ販売店にご依頼の上、毎年使い始めに行います。		
点検項目	要領	方法
①煙突の点検と掃除	煙突内部の煤・ タールの除去	P39参照
②炉内部の掃除点検	内部の煤、タールの除去	P36参照 ①～⑤参照
③各部ファイバーロープ点検	はがれ・劣化等の点検	P31～33参照
④バイパス・ダンパー調整	密閉度の点検	P35参照
⑤キャタリティック・コンバスター／ 二次燃焼室 点検	灰・煤の除去／ 損傷・劣化等の点検	P36参照
⑥サーモスタット点検 (一次空気用、二次空気用)	破損/劣化等の点検	P38参照
⑦ドアガラス点検	煤・タールの除去／ 破損の有無	P29・30参照
⑧ストーブ表面塗装補修	サビ・塗装はがれの補修	P29参照
⑨レッグ(脚)、 ヒートシールドの取付部	各ボルト、 スクリービスの緩みチェック	各ボルト、スクリービスの増し締め
⑩ヒートシールド内側の清掃	ほこりの除去	取付ビスを外して清掃

シーズンオフ	
春	ストーブの炉内に灰を残しておく、湿気が溜まり、錆やすくなるのでシーズンの終わりにすべて取り除く。
夏	バイパス・ダンパーと火力調節レバーを全開のままにして、煙突内の空気を常に対流させておく。
秋	上記シーズン前点検

5年点検 (本体のフル・メンテナンス)	
ストーブ販売店にご依頼の上、約5年に1度行います。	
下記、基本消耗パーツを中心に本体をフル点検。必要に応じ交換・補修を行います。	
基本消耗パーツ	品番
二次燃焼室アッセンブリー	1602527
キャタリティック・コンバスター	30001153
アッパー・ファイヤーバック	1306703
ダンパーハウジング	1306702
グレート	1308652
スロートフード	1306763
ドアガラス 左/右	1401157/1401156
非可動パーツのファイバーロープ	
各パーツ接着部分の耐火セメントの注入	
* 品番は40～41ページのパーツリストに対応しています。	
* ご使用状態により、点検後、上記基本消耗パーツ以外でも交換が必要となる場合があります。	

\* 上記は、取扱説明書に準じた適正な使用状態での標準メンテナンス・スケジュールとなります。よって、お客様の使用状態によってはメンテナンス時期が異なる場合もあります。

## 薪ストーブ本体のお手入れ

### ⊘ 分解・改造使用の禁止

本書に記載されているメンテナンス以外の分解、および改造はしないでください。火災や破損の原因になります。

**注意** お手入れを行うときは、ストーブを消火し、ストーブと煙突が十分冷えてから行ってください。また、安全のため、ゴーグルやマスク、グローブ等の安全衛生保護具を着用してください。

### ● 本体のお手入れ方法

#### 日常のお手入れ

本体全体のほこりや汚れを乾いた布、もしくは水に浸した後、きつく絞った布を使って、表面の汚れを落としてください。

#### 本体の塗装が剥がれる / 錆が発生した場合

##### 必要工具等

- ・ワイヤーブラシ
- ・ウェス(布)
- ・耐熱塗料、またはストーブポリッシュ(別売り)

**1** ワイヤーブラシで錆や古い塗装を落とし、次に乾いた布で、本体全体のほこりや汚れを落とします。湿らせた布を使う場合には、ストーブ表面に水分が残らないように注意してください。

**2** 専用の「耐熱塗料」(スプレー)、または「補修磨き剤」(ストーブポリッシュ)をご使用ください。

#### 耐熱塗料を使用する場合

劣化部分、または本体全体を塗装してください。新しいスプレーで塗装する場合、周囲の色と違いが出る場合がありますので、目立たない部分で試し塗りすることをおすすめします。スプレー作業中は十分な換気を行ってください。

**ポイント** ドア部分にスプレーする場合は、ガラス、ハンドルを養生し、ドア以外に塗料が付着しないようにご注意ください。その際、周囲に塗料が飛び散らないようにダンボール等を敷いてい行います。

#### 専用の「補修磨き剤」(ストーブポリッシュ)を使用する場合

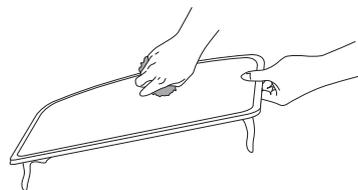
専用補修磨き剤(ストーブポリッシュ)を柔らかいブラシでのばし、ウェス(布)で拭き取り磨きます。周囲の色と違いが出る場合があります。

### ● クッキンググリドルのお手入れ

#### 必要工具等

- ・細毛ワイヤーブラシ、またはスチールウール

錆が発生したクッキンググリドルは、細毛ワイヤーブラシかスチールウールで磨いてください。



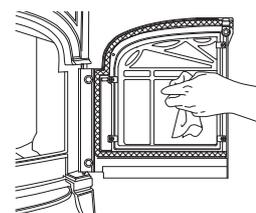
**ヒント** ダッチオープンに代表される鉄鋳物調理器具にシーズニングをする要領で、ストーブに火を入れる前にクッキンググリドルの表面に植物性オイルを薄く塗り、その後通常の使用温度で使用すれば、炭化被膜に覆われ錆びにくくなります。  
※油が炭化するまで煙が出ますので、室内の換気を十分行ってください。

### ● ドアガラスのお手入れ

#### 必要工具等

- ・ウェス(布)
- ・ティッシュペーパー
- ・ガラスクリーナー

別売りの専用「ガラスクリーナー」を使用。使用方法に従って汚れを落とし、自然に乾かしてください。



# メンテナンス

## 7

### ドアガラスの交換

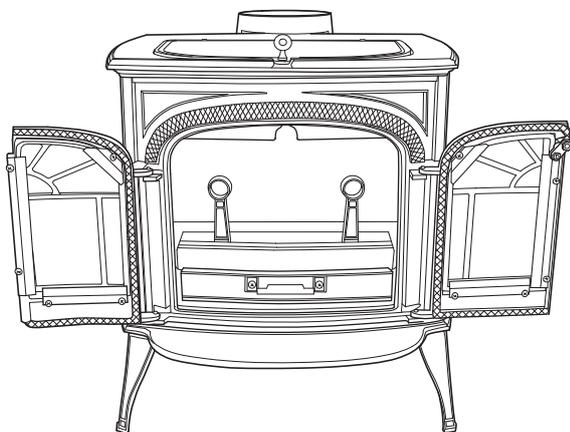
メン  
テナ  
ンス

ドアガラスが破損した場合は、速やかに交換してください。

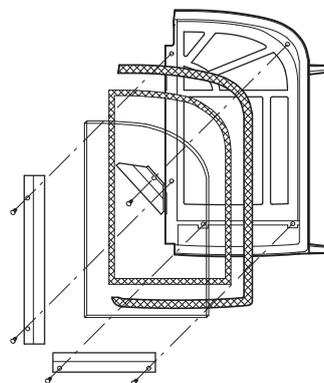
**注意** 必ずパーモントキャスト社の純正耐熱セラミックガラスをお使いください。その他の代用品は決して使わないでください。  
ドアガラスの外側の面には赤外線反射コーティングが施されているため、左右の入替はできません。

- 1 フロントドアを90度以上開き、ヒンジピンが下の穴から外れるまでドアを持ち上げ下部をずらし、下げて上の穴からピンを抜いてドアを外します。

**注意** 外したドアは、表側が下に来るようにし、表面にキズがつかないように毛布やダンボール等の上に置きます。ホウロウ色のドアには特に注意が必要です。特にドアの納まる上下部分に注意が必要です。



**ポイント** ガラスとドアの間にはファイバーロープが付いています。ファイバーロープはガラスとドアの間がきっちり密閉できるように、柔らかくて弾力性がなければなりません。ファイバーロープが硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合は交換が必要です。



- 2 ガラスに注意をしながら、ガラスをおさえているクリップを外します。(ビス5本)

- 3 破損したガラスを丁寧に外します。

- 4 新しいガラスがファイバーロープに均一に当たるようにします。熱反射コーティング側がストーブの外側に向くようにし、クリップでガラスをおさえ、元のように取り付けます。

**注意** クリップを取り付ける際、ビスを強く締めすぎるとガラスが破損する恐れがあります。

**ポイント** 熱反射コーティング側の見分け方  
ガラスに天井の蛍光灯等を映すと、蛍光灯がぼやけて見える側と、はっきり見える側があります。はっきり見える側が熱反射コーティング側です。わかりづらい場合、晴れた屋外で対象物を変えながら行くと、より判別がしやすいでしょう。

- 5 フロントドアを本体に1の逆の要領で取り付けます。

#### 必要部材

- ・交換用ガラス 品番1401157 (左側)  
品番1401156 (右側)

#### 必要工具等

- ・プラスドライバー

## ファイバーロープの交換

薪ストーブの気密性を保つため、フロントドアやクッキンググリドルなどの周囲には、ファイバーロープが使われています。使用に伴い、特に可動部分のファイバーロープは劣化し、効力が失われます。弾力性がなく、硬くなっている場合や、ほつれ等の劣化が感じられる場合は交換が必要です。

※ファイバーロープを使用しているパーツを下のイラストで示してあります。

※ファイバーロープ サイズ／必要長さ(可動部分パーツ名称)

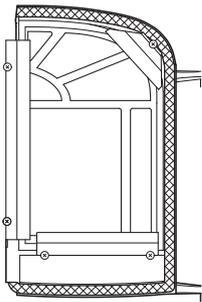
### 必要部材

- ・耐火セメントガスケット用(R77E)又はシリコンシーラント(R76A)
- ・ファイバーロープ

### 必要工具等

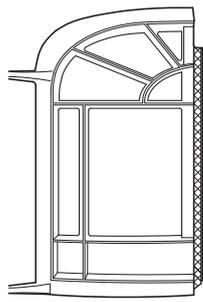
- ・ワイヤーブラシ
- ・マイナスドライバー
- ・タガネ
- ・マスキングテープ

#### ドア部分

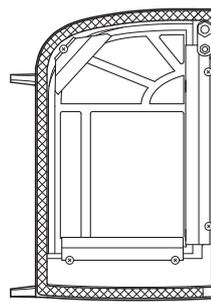


左裏側

左 φ7.94mm (R721)長さ110cm



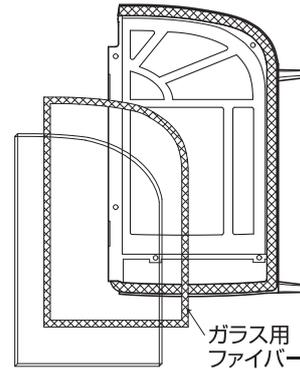
左表側



右裏側

右 φ7.94mm (R721)長さ68cm

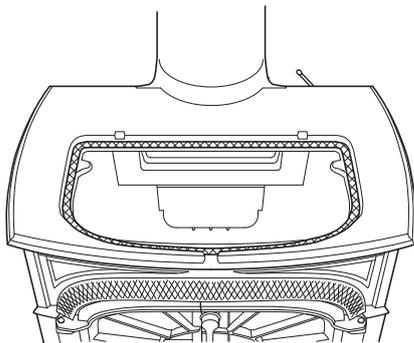
#### ガラス部分



ガラス用  
ファイバーロープ

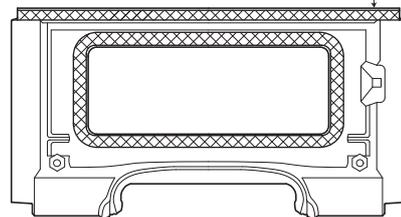
右 φ4.76mm (81219)長さ73cm  
左 φ4.76mm (81219)長さ73cm

#### クッキンググリドル部分



φ7.94mm (R516GG)長さ110cm

#### ダンパーハウジング部分



非可動部

φ7.94mm (R721)長さ68cm

- ドア部分は「シリコンシーラント」で接着されておりますが、「耐火セメント」を使用することもできます。他の部分には「シリコンシーラント」は使用できません。
- 上記以外のファイバーロープは非可動部分同士に使用されており、消耗度合いは異なりますので、パーツ取外し時以外は基本的に交換は不要です。



動画で  
Check!

「ファイバーロープの交換」  
(トップドア)

# メンテナンス

## 7

### ファイバーロープの交換

メンテナンス

- 1 左右のドアを外し、作業のし易い所に置きます。
- 2 劣化したファイバーロープの端をつかんで、強く引っ張り外します。(図1)

- 3 ワイヤブラシかドライバーの先端を使って、残ったシリコンシーラントやファイバーロープの破片を溝から取り除きます。(図2)

**注意** ホウロウ色の場合、ホウロウ部分の破損に注意して作業してください。

- 4 適切なサイズで規定の長さより5cm程長めのファイバーロープを用意し、溝に、約3mm厚でシリコンシーラントを注入します。(図3)

- 5 ファイバーロープを溝の一方から押込んでいきます。(図4)

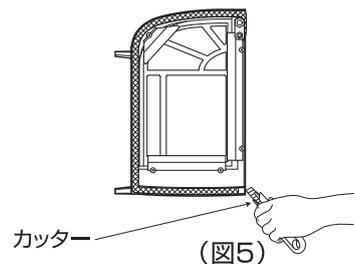
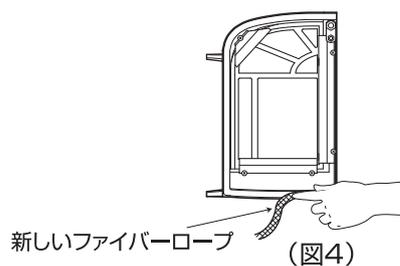
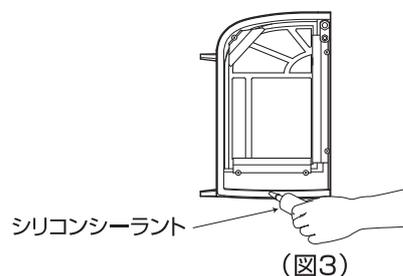
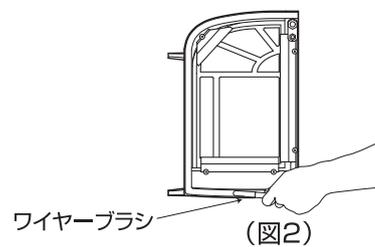
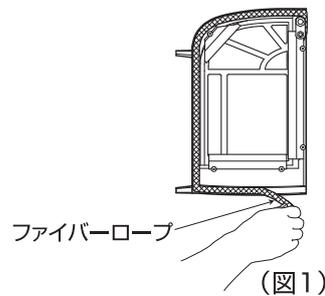
**注意** 弾力を持たせるため、ファイバーロープは強く伸ばさないようにしてください。

- 6 溝の終了部分のファイバーロープにマスキングテープを巻き、余分をカットして長さの調整を行います。(図5)

- 7 ドアを閉めて、該当する接触部分をファイバーロープにしっかりと密着させます。

- 8 ドアを再び開け、溝の周辺からはみ出したシリコンシーラントをマイナスドライバーの先で取り除き、24時間以上常温で乾燥させます

**ポイント** お使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルやバイパスダンパーの調整を34、35ページに従って行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です



## ファイバーロープの交換

### ●バイパスダンパー部の ファイバーロープの交換について

バイパスダンパー部のファイバーロープは、フロントドアを開け、バイパスダンパーが開いた状態にし、ダンパー・ハウジング周囲の裏側に付いているファイバーロープを手で触り、点検します。

交換する際は室内の自在煙突をスライドさせ、煙突を本体から外します。左右2箇所 bolts を外し、本体に付いている鋳物製のフルーカラー（煙突接続部）を取外し、この開口部から作業を行います。この時フルーカラーの付く本体の開口回りのファイバーロープも交換します。（図1、図2）

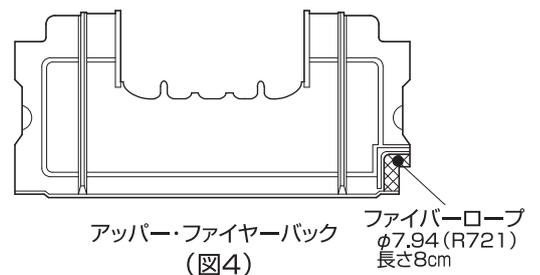
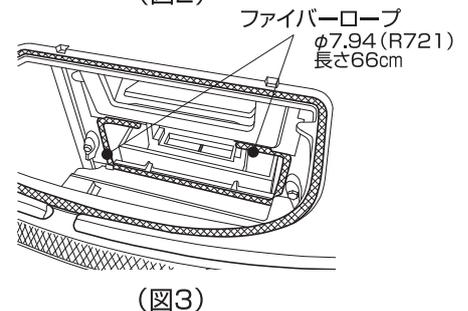
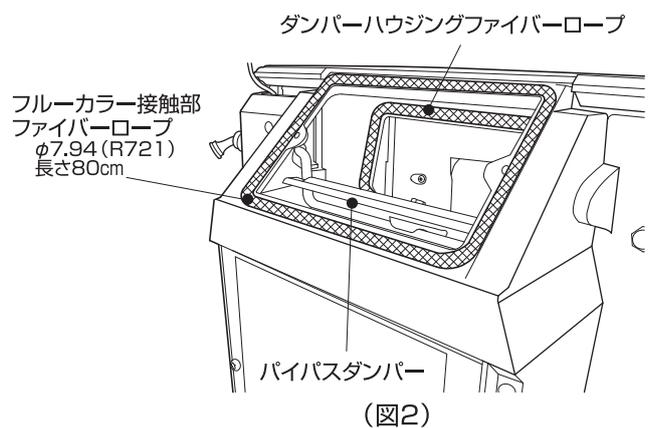
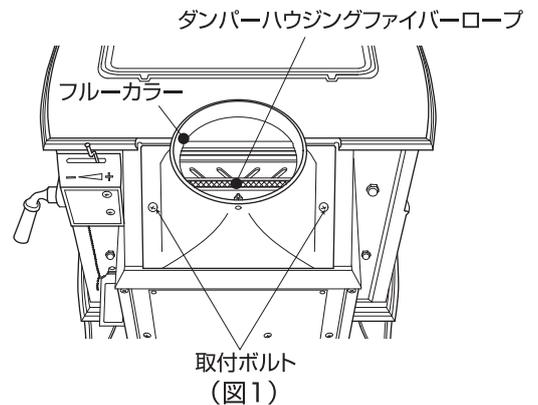
**注意** 作業が困難な場合は販売店にご依頼下さい。

### ●アッパー・ファイヤーバックの ファイバーロープの交換

**1** アッパー・ファイヤーバックを36ページ**1**～**5**の手順に従って取り外します。

**2** アッパー・ファイヤーバックを外に取り出して、回りのファイバーロープを交換します。（図3、図4）  
※両側縦のファイバーロープは上下のパーツに継がっています。アッパーファイヤーバックのみの交換の場合には、カッターで切断して新しいファイバーロープをすき間なく付けてください。

**3** 37ページ**9**から**10**の手順に従って取り付けます。



# メンテナンス

## 7

### ドアの調整(フロント)

メン  
テナ  
ンス

#### 密閉度テスト

定期的(シーズン前点検等の際には必ず)に、密閉度テストを行ないます。密閉度が不十分であれば、ドアの調整が必要になります。紙をドアに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ドアの密閉度が不十分です。ドアの周囲全体に渡って行います。(図2)

**ポイント** ファイバーロープに弾力性がなく、硬くなっている場合やほつれ等の劣化が見られる場合はファイバーロープの交換が必要です。そのままお使いになると過剰に燃烧空气が入り火力コントロールができなくなります。過燃烧となり炉の中のパーツが歪んだりストーブの劣化を招くばかりでなく大変危険です。必ず実行してください。

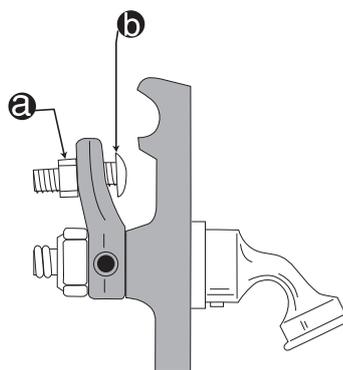
#### 必要工具

- ・コンビネーションレンチ11mm
- ・本体付属六角レンチ(小)

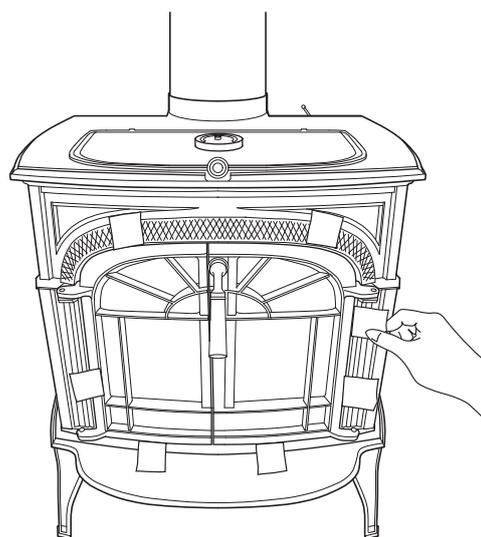
#### ハンドル調整

- 1 フロントドアを開け、ハンドル内側のスモールロックナット **a** をゆるめ、付属の六角レンチ(小)を使って六角穴付きボルト **b** を半回転させ、ドアを閉めたときのロックの強さを調整します。(図1)
- 2 六角穴付きボルト **b** が回らないように押さえながらスモールロックナット **a** を締め直します。(図1)
- 3 密閉度テストを行い、密閉度を確認します。不十分であれば再度調整します。(図2)

**ポイント** お使い始めや、ファイバーロープを交換した後、新しいファイバーロープがなじむまで、ドアハンドルの調整を行います。しばらくしてハンドルの当たりがゆるんできたら、再度調整を行います。なじむまで数回調整が必要です。



(図1)



(図2)

# メンテナンス

## バイパス・ダンパーの調整

7

メンテナンス

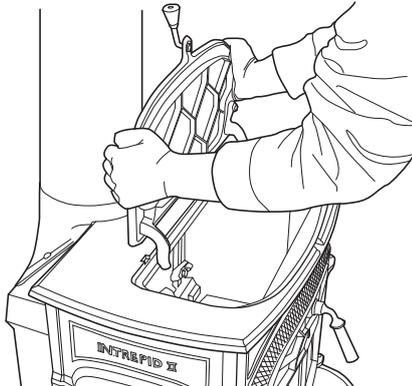
### 密閉度テスト

定期的（シーズン前点検等の際は必ず）に、密閉度テストを行います。その結果、密閉度が不十分であれば、ダンパーハウジングにあるファイバーロープ（P 33参照）に加圧するために、ダンパー・ロッドとバイパスダンパーのあたりを調整します。紙をダンパーに挟んだ状態で閉めます。紙を引っ張り、楽に取れるようであれば、ダンパーの密閉度が不十分です。ダンパーの周囲全体に渡って行います。

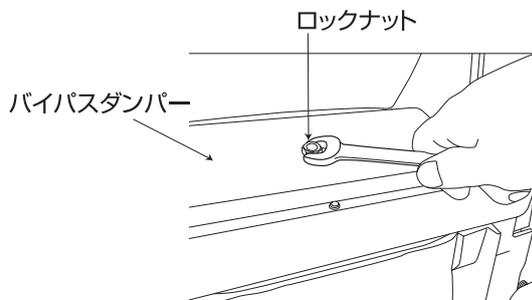
#### 必要工具

- ・コンビネーションレンチ11mm
- ・本体付属六角レンチ（小）

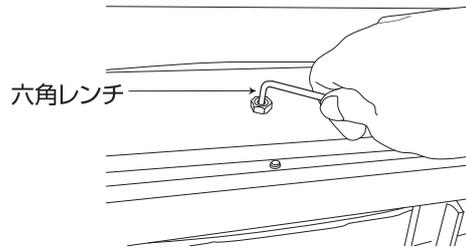
#### 調整



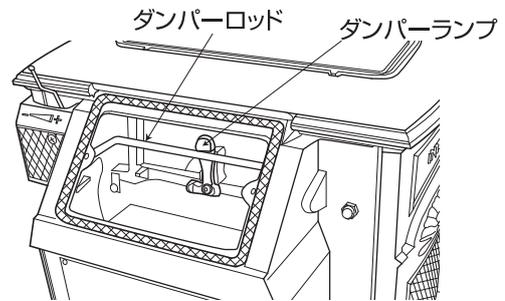
- 1 クッキンググリドルを垂直近くまで開け、そのまま上に持ち上げ、取り外します。この開口部から作業を行います。



- 2 バイパスダンパー中央にあるロックナットをコンビネーションレンチでゆるめます。



- 3 圧縮ネジを六角レンチで回転させます。時計方向に回すときつくなります。



- 4 ロックナットを締め、バイパスダンパーハンドルを動かして、バイパスダンパーの閉まり具合、ダンパーランプとダンパーロッドの当たり具合をテストします。

**ポイント** しばらく使用しているとファイバーロープが圧縮され、多少、閉まり具合がゆるくなってきますので、その際にはしっかり閉まるように再調整してください。

**ポイント** ダンパーロッドのあたりを目視するには、室内自在の下の煙突を上方へスライドさせ、煙突をフルーカラーから外します。開口部からバイパスダンパーの裏側にある、ダンパーロッドとダンパーランプを確認することができます。

# メンテナンス

## 7

### キャタリティック・コンバスター及び二次燃焼室の点検

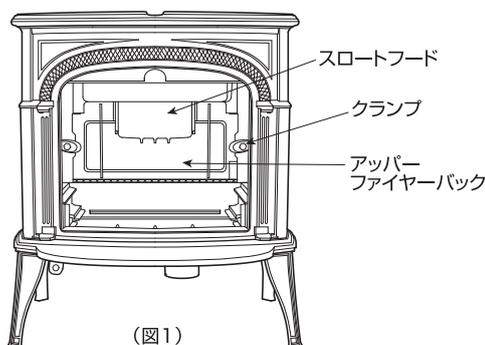
メンテナンス

シーズン前点検等の際や、煙突から黒い煙が出る、煙突がすぐつまる、バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう等の症状が出たときは、キャタリティックコンバスター及び二次燃焼室を点検します。

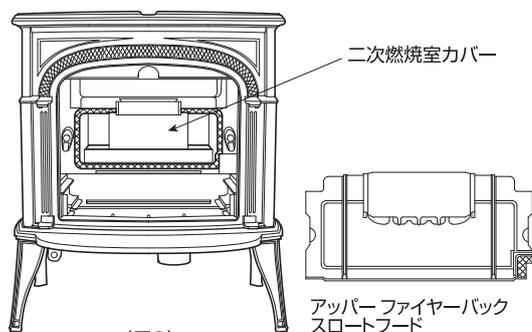
#### 必要工具等

- ・ボックスレンチ 16mm    ・掃除機
- ・マイナスドライバー    ・ハケ
- ・懐中電灯
- ・ペンチ

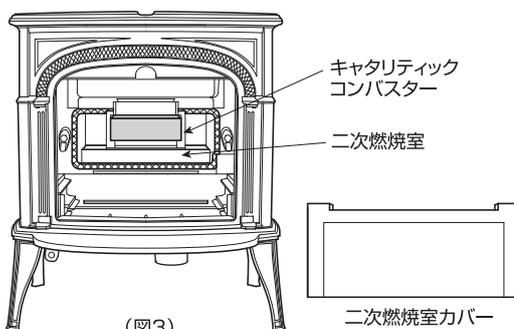
- 1** 左右のフロントドアを取外し、作業しやすいようにアンダイアンを持ち上げ、取り外します。
- 2** グレート(火格子)、アッシュパンアッセンブリー(灰受引出し)を取り外します。
- 3** 本体背面中段の六角袋ナットを両側ともゆるめます。
- 4** ペンチでストーブの中のアップパーファイヤーバックを支えているクランプを90°回します。向かって左のクランプは時計方向、そして右のクランプは半時計方向にそれぞれ90°回します。(図1)
- 5** アップパーファイヤーバックを取り出します。アップパーファイヤーバックの背面に耐火セメントが付着していますので、マイナスドライバー等で少しこじってください。アップパーファイヤーバックを外すことでスロートフードも同時に外れます。周囲のファイバーローブが劣化している場合には交換してください。(33ページ参照)(図2)
- 6** 二次燃焼室カバーを外し、キャタリティックコンバスターを取り出します。(図3、図4)



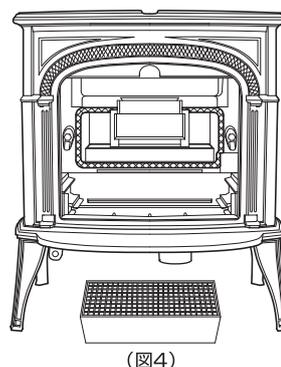
(図1)



(図2)



(図3)



(図4)

**ポイント** 二次燃焼ボックスとカバーはセラミックファイバー製でこわれ易いのでキャタリティック・コンバスターの出し入れの際に破損しないように注意してください。

**7** 取り出したキャタリティックコンバスターの外観をチェックし、欠落、灰の蓄積、煤や他の異物の付着があるか確認します。

正常なキャタリティックコンバスターはハニカムの崩れがなく、明灰色です。

灰や煤、他の異物の付着を確認するには光にかざしてみます。ハニカム内部にクレオソートや燃えかすが溜まっていると光の通りが悪く見えます。

灰と煤の付着がある場合は、軽く息を吹きかけるかハケ等で払い落としてください。

破損等の症状が認められた場合は、お買い求めの販売店へご相談ください。

**注意** キャタリティックコンバスターの清掃にエアークンプレッサー等の圧縮空気式のものを使わないで下さい。表面のコーティングが剥がれ機能が低下します。セラミックボックス（二次燃焼室）は壊れ易いので取り出さないでください。

**ポイント** キャタリティックコンバスター交換の目安はおよそ12,000時間ですが、使用状況によりその時期は異なります。判断しかねるときにはお買い求めの販売店へご相談ください。

**8** セラミックボックスの両脇の灰を掃除機等で吸い取ります。（灰が完全に冷えている事を確認してください。）

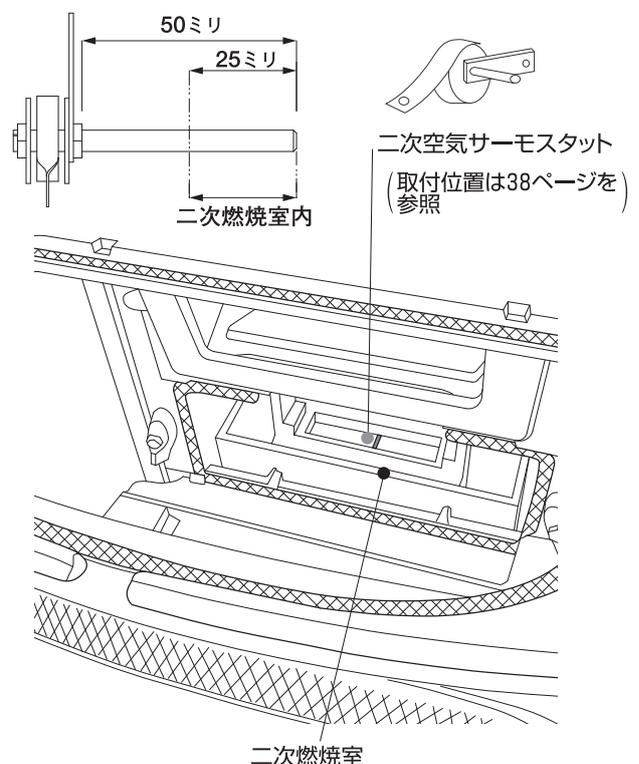
**ポイント** セラミックファイバー製の二次燃焼室に大きな崩れが見られた場合、交換が必要です。お買い求めの販売店へご相談ください。

**9** キャタリティックコンバスターが外されている状態で、二次空気サーモスタットの状態を調べます。二次燃焼室内に二次空気サーモスタットが約25mm突き出しておりますので、ソリ、腐蝕、長さが短いなど損傷がないか点検します。取り外して点検、交換する場合は38ページを参照してください。

**ポイント** 二次空気サーモスタットが破損していると、キャタリティックコンバスターの性能に影響が出ます。

**10** キャタリティックコンバスターを元通りセットし、二次燃焼室カバーを取り付けます。アッパーファイヤーバックにスロートフードを組み付け、後方に倒すようにして、しっかりと取り付けます。

**11** 左右のクランプをペンチでもとの様に廻し背面から袋ナットで固定します。



# メンテナンス

## 7

### 一次及び二次空気取入れ口の点検

メン  
テナ  
ンス

一次及び二次空気は自動温度調節機能により、空気の供給量が自動的に調節されます。下記のような燃焼の不具合が起きたときには点検が必要です。

- ・過燃焼が続き、火力調節レバーで調節が出来ない。
- ・本体が冷えている焚き始めの時に、火力調節レバーを操作しても空気不足で炎が立ち上がらない。

#### 一次空気取入れ口の作動点検

一次空気取入れ口は本体背面の右側下部にあり、ストーブの背後から確認できます。火力調節レバーを動かす際、取入れ口のフラップは自由に開閉できなければなりません。うまく作動しない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

**ポイント** 一次空気取入れ口にほこりが溜まっている場合がありますので、掃除機等で取り除いてください。

#### 二次空気取入れ口の作動点検

**1** 本体が冷えていることを確認の上、プラスドライバーで2箇所のネジを外し、本体背面にある二次空気カバーを取り外します。

**2** 二次空気フラップを軽く手で動かし、上下に自由に動くことを確認します。二次空気フラップが自由に動かない、もしくは取り付け状態が正常でない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。

**ポイント** 二次空気取入れ口にほこりが溜まっている場合がありますので、掃除機等で取り除いてください。

#### 二次空気サーモスタットの交換

37ページの点検の結果、交換必要な場合以下の手順で行ってください。

**1** 二次空気サーモスタットを止めているネジをプラスドライバーで外します。

**2** 二次空気フラップを止めているネジをプラスドライバーで外します。この時シムリングをなくさない様に注意してください。

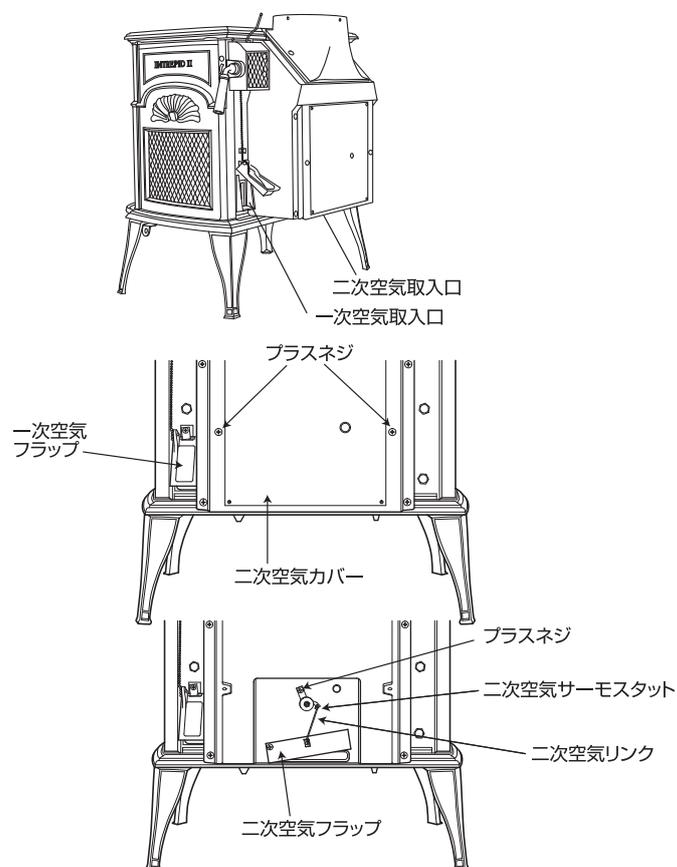
**3** 二次空気サーモスタットを引き抜き二次空気リンクを外します。

**4** 逆の手順で新しい二次空気サーモスタットを二次空気リンクに取り付け接続します。ネジで止めます。

**5** 二次空気カバーを元の場所に取り付けます。

#### 必要工具等

・プラスドライバー ・掃除機



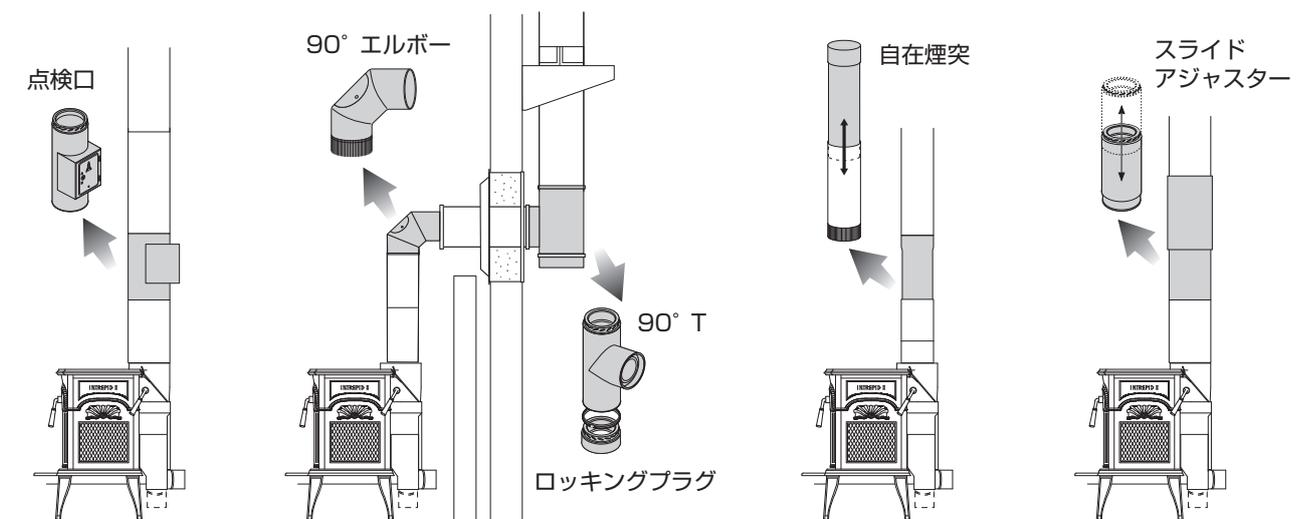
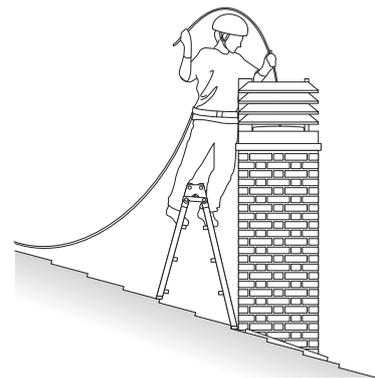
## 煙突の点検と掃除

煙突の点検と掃除は一般的にストーブシーズンに入る前に行います。本体と煙突の各部分を詳細に点検します。煙突内部のスス、タールなど堆積物や鳥の巣などの閉塞物を取り除きます。掃除の目安は堆積物が3ミリメートル以上です。状況によってはシーズン中の掃除が必要になる場合もありますので、設置してから数年は汚れ等の状況を把握するためにこまめに点検を行ってください。

- 本体と煙突、煙突どうしの接続部がネジ、バンド等で隙間なく固定されているか確認してください。
- 煙突の内部を点検することのできる煙突部材（自在煙突、90°T、90°エルボー、点検口、スライドアジャスター）から堆積物の状態を確認してください。お客様により設置状況が異なりますのでお買い求めの販売店へご確認ください。
- 煙突内堆積物の確認にあわせて鳥の巣等による、煙突のつまり、煙突トップのつまりを点検してください。
- 点検後、清掃、修理を適切に行ってください。不明な点は販売店にお問い合わせください。
- 点検または煙突掃除のために開閉する点検口や90°T、90°エルボーの煙突のプラグは、作業後

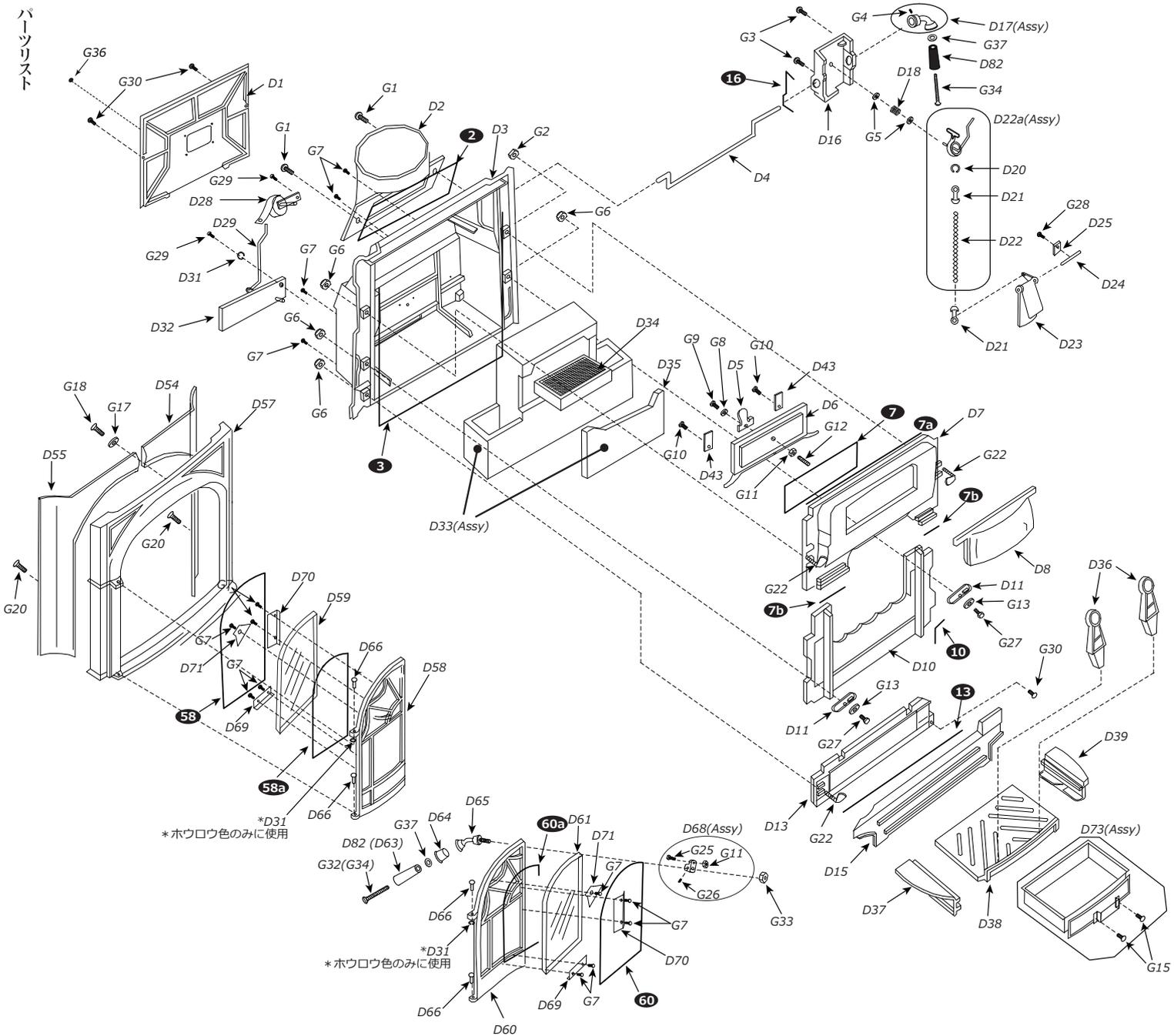
にしっかりと閉鎖し固定されているか確認してください。

- 本体、煙突は清掃後に外部、内部とも点検を行い、損傷・亀裂・劣化が確認された場合は使用を止め、直ちに販売店へ連絡し、修理を依頼してください。
- 次の場合には必ずお買い求めの販売店へ点検を依頼してください。
  - ・煙突火災や異常燃焼が発生した場合
  - ・暴風雨または地震等の天変地異が発生した場合
  - ・本体、煙突に損傷を及ぼす可能性がある他の出来事が発生した場合



# パーツリスト

パーツリスト



\*D31  
\*ホウロウ色のみを使用

\*D31  
\*ホウロウ色のみを使用

【ハードウェア】

図番	品番	品名
G1	1200900	トラスネジ1/4-20X3/4-BLK
G2	1203161	六角ナット3/8-16
G3	1200995	なべネジ1/4-20 x 2"
G4	1200563	ソケットセットスクリュー-5/16-18x5/16-BLK
G5	1202423	ワッシャー-#10SAE-Z.218idX.5od.05
G6	1203130	3/8-16袋ナット
G7	1200998	TRSネジ 10-24x1/2
G8	1202475	ワッシャー
G9	1201529	なべキャップスクリュー-1/4-20x5/8
G10	1201338	六角ボルト1/4-20x1/2
G11	1203210	六角ナット1/4-20

図番	品番	品名
G12	1200436	ソケットセットスクリュー-1/4-20X1-BLK
G13	1202560	ワッシャー-FL3/8-Z.406i.75o.062
G15	1200993	なべネジ1/4-20 x 3/8-BLK
G17	1202474	ワッシャー-1/4-Z.313iX.742o.06t
G18	1200900	トラスネジ1/4-20x3/4-BLK
G20	1200815	ネジ1/4-20X1 1/2-BLK
G21	1202488	ワッシャー-3/8-Z.442iX1o.074t
G22	1201583	抑えネジ3/8-16 x 1
G23	1201900	プッシング
G24	1201308	グリドルハンドル用スロットネジ 8-32X1
G25	1200461	なべキャップスクリュー-1/4-20X3/4

図番	品番	品名
G26	1200417	ソケットセットスクリュー-1/4-20 1/4
G27	1201456	六角ボルト3/8-16x1-1/2"
G28	1200983	なべネジ10-24x3/8
G29	1200980	なべネジ10-24x1/4"
G30	1200896	トラスネジ1/4-20x5/8-BLK
G31	1201432	六角ボルト 3/8-16x1
G32	1201310	ネジ1/4-20X3- (ウッドハンドル用)
G33	1203290	六角ナット3/8-16
G34	1201294	セラミックハンドルボルト 1/4-20x3.5
G35	1202461	ロックワッシャー
G36	1201899	ホールプラグ
G37	1202473	ワッシャー-1/4 BLK 266iX629o 064t



# トラブルシュート

9

トラブルシュート

ト ラ ブ ル	原 因	解 決 策
<b>薪が燃えない</b>	薪は十分に乾燥していますか？	十分に乾燥した薪を使用してください。もし十分に乾燥した薪が入り困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については「薪について」(14ページ)をご参照ください。
	最初から太めの薪をくべていませんか？	焼き始めは細い薪に着火し、徐々に太い薪をくべてください。燃焼については「焼き方(18ページ)」をご参照ください。
	火力調節レバーを閉じていませんか？	火力調節レバーを全開にしてください。
	煙突の中が煤でつまっていますか？	煙突の中に煤が3mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。煙道火災を防ぐ為にも定期的な点検及び、メンテナンスが必要です。
	自動温度調節(サーモスタット)と一次空気取り入れ口が作動していますか？	38ページの「一次空気取り入れ口の作動点検」に従って点検してください。 ※調整や修理はお買い上げの販売店へご相談ください。
	煙突が冷えていますか？	煙突が冷えていると上昇気流が弱いので、燃えにくい場合があります。煙突を暖める強制的な上昇気流のおこし方については「うまくつかない…」17ページをご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを開めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	換気扇を使用していませんか？	換気扇使用中に薪ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流力が弱まり、燃えにくい場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店へご相談ください。
	キャタリティックコンバスターがつまっていますか？	キャタリティックコンバスターの点検については「メンテナンス」のキャタリティックコンバスターの点検(36～37ページ)をご参照ください。
<b>バイパスダンパーを閉めると火が消えてしまう</b>	バイパスダンパーを閉める温度は適切ですか？	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを開めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	キャタリティックコンバスターがつまっていますか？	キャタリティックコンバスターの点検については「メンテナンス」のキャタリティックコンバスターの点検(36～37ページ)をご参照ください。
<b>薪が早く燃えすぎる</b>	バイパスダンパーを開けたまま焚いていませんか？	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを開めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	火力調節レバーを全開のまま焚いていませんか？	火力調節レバーで火力を調節してください。
	火力のない古い薪や腐った薪、火持ちの悪い軟木や細い薪を使用していませんか？	くべる時は、適度に乾燥した火持ちのよい堅木の薪や太い薪を使用してください。
	クッキンググリドルやフロントドアのファイバーローブが消耗し、空気を吸い込みすぎていませんか？	消耗していれば新しいファイバーローブに取り替えてください。取り替え方法については31ページ「メンテナンス」のファイバーローブの交換をご参照ください。
	自動温度調節(サーモスタット)と一次空気取り入れ口が作動していますか？	38ページの「一次空気取り入れ口の作動点検」に従って点検してください。 ※調整や修理はお買い上げの販売店へご相談ください。
	煙突は長すぎませんか？	煙突が長すぎると上昇気流が強すぎ、必要以上に燃えてしまいます。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。

煙が室内にもれ出る	バイパスダンパーを閉めたまま、クッキンググリドルやフロントドアを開けていませんか？	バイパスダンパーを開けたことを確認してから、クッキンググリドルやフロントドアを開けてください。
	換気扇を使用していませんか？	換気扇使用中に薪ストーブを焚くと、煙突内の上昇気流が弱まり、煙が室内にもれ出る場合があります。ご使用をおやめになり、お買い上げの販売店にご相談ください。
	煙突の中が煤でつまっていませんか？	煙突の中に煤が3mm以上付着している場合は、煙突の掃除をしてください。
	煙突トップ付近で強風がふいていませんか？	強風により、煙が室内にもれ出る場合があります。 ※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	曲がりの多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか？	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、煤もたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方は17ページ「うまくつかない…」をご参照ください。改善されない場合、お買い上げの販売店へご相談ください。
	室内に、燃焼に必要な空気は十分にありますか？	高気密住宅では、燃焼に必要な空気が不足する場合があります。窓などを開けて空気を取り込むか、専用の給気アダプターを取り付けてください。※詳しくはお買い上げの販売店へお問い合わせください。
	煙突は短すぎませんか？(5m未満)	煙突の高さが5m未満の場合、上昇気流が弱く、室内に煙がもれ出ることがあります。詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	キャタリティックコンバスターがつまっていませんか？	キャタリティックコンバスターの点検については「メンテナンス」のキャタリティックコンバスターの点検（36～37ページ）をご参照ください。
ドアガラスがひどく曇る	火力調節レバーをしぼるタイミングが早すぎませんか？	低温領域で火力調節レバーをしぼると、不完全燃焼になりクレオソートや煤が発生しやすくなります。十分に暖まってからバイパスダンパーを閉め、火力調節レバーを調節してください。火力調節レバーをしぼるタイミングについては18ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを閉めてください。
	フロントドアが少し開いていませんか？	フロントドアをきちんと閉めてください。
	クッキンググリドルやフロントドアのファイバーロープが消耗し、空気をすいこみすぎていませんか？	消耗していれば新しいファイバーロープに取り替えてください。取り替え方法については31ページ「メンテナンス」のファイバーロープの交換をご参照ください。
	キャタリティックコンバスターがつまっていませんか？	キャタリティックコンバスターの点検については「メンテナンス」のキャタリティックコンバスターの点検（36～37ページ）をご参照ください。

# トラブルシュート

9

トラブルシュート

煤が煙突につまりやすい	乾燥が不十分な薪を使用していませんか？	十分に乾燥した薪が入手困難な場合は、できるだけ細かく割って使用してください。薪については14ページ「薪について」をご参照ください。
	キャタリティックコンバスターがよごれていませんか？	キャタリティックコンバスターの点検については「メンテナンス」のキャタリティックコンバスターの点検（36～37ページ）をご参照ください。
	屋外でシングル煙突を使用していませんか？	屋外でシングル煙突を使用すると、外気の影響により冷えやすく、煙突の中が結露する原因となります。その結露に煤が付着すると、煙道火災、煙の逆流、煙突内部のよごれの原因となりますので、断熱二重煙突に交換してください。 ※詳しくはお買い上げの販売店へご相談ください。
	焚く温度が低すぎませんか？	低温度域で使用すると、不完全燃焼になりクレオソートや煤が発生しやすくなります。通常薪ストーブを焚く時は175℃以上でご使用下さい。使用温度域については19ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	バイパスダンパーを閉めずに火力調節レバーをしばっていませんか？	バイパスダンパーを開けたまま燃焼させると、キャタリティックコンバスターを働かせることができず、未燃焼物が多くなり煙突に煤がつきやすくなります。バイパスダンパーを閉め、十分に暖まってから火力調節レバーをしばってください。燃焼については20ページ「薪の着火と燃焼維持」をご参照ください。
	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置ではありませんか？	曲がりが多い、あるいは横引き部分が長い煙突設置では煙の流れが悪くなります。その結果、煙突が冷えやすく、煤もたまりやすくなります。煙突を十分に暖めてからご使用ください。煙突の暖め方については17ページ「うまくつかない…」をご参照ください。
温度が上がらない	十分に乾燥していない薪、火力のない古い薪や腐った薪、太すぎる薪を使用していませんか？	早く温度を上げたい時は細い薪や十分に乾燥させた薪を細かく割って、多めに使用すると効果的です。薪をくべる時は、十分に乾燥した火持ちのよい堅木の薪を使用してください。薪については14ページ「薪について」をご参照ください。
	薪の量が少な過ぎませんか？	長い時間燃やすための太い薪（直径10cm以上）を3本以上入れて様子を見てください（ストーブ内に薪をいっぱい詰めてください）。
	バイパスダンパーを閉めるタイミングが早くありませんか？	クッキンググリドルの表面温度が230℃以上になったことを確認し、バイパスダンパーを開めてください。詳しくは18ページの⑧をご参照ください。
	火力調節レバーを閉じていませんか？	火力調節レバーを全開にしてください。
バイパスダンパーが開閉しない	ダンパーハンドルは動きますか？	低温度域で使用した場合や乾燥が不十分な薪を燃やした場合、やにが多く燃え残り、バイパスダンパーの回りに付着してしまうことがあります。その際は薪などでバイパスダンパーを軽くたたいてください。また、バイパスダンパーの開閉がきつすぎる時は、調節が必要です。「メンテナンス」のバイパスダンパーの調整をご参照ください。
	本体は水平に設置されていますか？	本体がななめの状態ではバイパスダンパーが開閉しにくいことがあります。本体の水平をとってください。
	焚きすぎによりバイパスダンパーが変形していませんか？	正常温度域をこえて薪ストーブを使用すると鋳物が変形することがあります。変形部分を交換してください。※修理はお買い上げの販売店へご相談ください。

## 保証とアフターサービス

### 修理を依頼される前に ……

まずはトラブルシュート（42 ページ）をご確認ください。解決しない場合やトラブルシュートにない異常、破損がある時は使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。

### 保証について

保証書は、本体に同梱してあります。

「お引き渡し日・販売店名」等に記入漏れがないかご確認ください。記入漏れがある場合は、保証いたしかねますのでご注意ください（記入もれのある場合は、お買い上げの販売店にお申し出ください）。保証書は内容をよくお読みになった後、大切に保管してください。

保証期間中の修理に際しては必ず保証書をご提示ください。

### 保証期間

保証期間はお買い上げいただいた日から2年間です。この期間中に本書に従った正常な使用状況のもとで故障が発生した場合、消耗部品（28 ページ）を除き保証書の規定に従って無料修理させていただきます。

保証期間が過ぎていても、修理すれば使用できる場合に限り、ご希望により有料にて修理いたします。お買い求めの販売店までお問い合わせください。

### 修理料金の内容

修理料金は部品代などで構成されています。

- 技術料／診断、故障箇所の修理、部品交換、調整、完了点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代／修理に使用した部品、および補助材料費用です。
- 出張料／製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

### 補修用性能部品の保有期限

補修用性能部品（性能を維持するために必要な部品）の保有期限は製造打ち切り後 10 年です。

### あんしん点検のご案内

所有者登録にご記入いただき、あんしん点検のご登録をいただいたお客様には、お引き渡しから5年後にあんしん点検（点検は有料）のご案内通知をお送りさせていただきます。

### ご不明な点や修理に関するご相談は …

ご不明な点ならびに故障・修理、あるいは部品のお取り替えに関するご相談は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

より一層のご理解をいただくために、本書とあわせて下記のサイトもご利用ください。



ファイヤーサイド公式サイト



薪ストーブエッセイ・森からの便り

【取扱説明書ダウンロード】

<https://www.firesidestove.com/products/stoves/manual.html>

ファイヤーサイドのホームページより常に最新版の取扱説明書をダウンロードいただけます。

---

# Memo

---

A series of horizontal dashed lines for writing.



# VERMONT CASTINGS



輸入元

**ファイヤーサイド株式会社**

長野本社 / 〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂497-871 TEL:0265-82-4676(代) FAX:0265-82-4683

 **0120-46-7877** e-mail:info@firesidestove.com

- ファイヤーサイド公式サイト <https://www.firesidestove.com>
- 薪ストーブエッセイ・森からの便り <https://fireside-essay.jp>

Copyright 2020 Fireside Company Ltd.© 掲載されている全ての情報及び写真、イラスト等の無断転載、複写、複製を禁じます。

FS-2020.10. ⑩